関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No.34 2007.9

125th ANNIVERSARY 人になれ 奉仕せよ 1884~2009

テンネー礼拝堂（中学校本館［横浜市指定歴史的建造物］3階）

「関東学院の教育について」

――関東学院の伝統と奉仕教育――

関東学院学院長　森島牧人

我が校を含め多くのキリスト教学校が歩んだ道は、その創設の時代より現在に至るまで、特に『教育勅語』に続く『文部省訓令12号』下、決して平らかなるものではありませんでした。今日の私学とりわけキリスト教学校のおかれている状況も、逆風の下におかれ、とても厳しいものがあります。

昨年までわたしは大学ヨット部の責任を持っていました。その走る姿は、キリスト教学校のように見えました。ヨットは風上に向かっても進むからです。追い風に乗って押されて進むばかりでなく、航空機が揚力で支えられているように、ヨットは引っ張られても進むのです。レースではいつも追い風ばかりとは限りません。否、逆風でこそヨットマンの真価が問われるのです。キリスト教学校は、自分たちの力や好況という追い風に頼るのでなく、私たちを導いて下さる真の神に信頼をおかなければなりません。その意味で、キリスト教学校の基盤は、神礼拝にあります。関東学院が戦時下にあっても礼拝を守り通した事は、わたしどもの大きな誇りであります。

関東学院教育の目標

関東学院のキリスト教教育の特色は、「人になれ　奉仕せよ」との校訓の中に示されています。この言葉は、絶対者との真の出会いは、人をして他者への奉仕へと向かわしめるという、キリスト教信仰の神髄を的確に表すものです。その意味から言えば、真の神との出会いを教育の場に求め続けてきた本学院にとって、キリスト教教育の一貫としてのボランティア活動自体は取り立てて新しいことではありません。むしろ本学院がその長い歴史を通して取り組んできたもの、つまりそれは関東学院の重要な伝統の一部であるといえます。しかしこの校訓が求める「奉仕の精神」を正課の授業として真正面から取り組んだことは最近までありませんでした。しかし「特色ある教育」が叫ばれる今日、本学の特色である「人になれ　奉仕せよ」の内実化・活性化を目指す教育プログラム構築は急務であります。

横浜バプテスト神学校とA.A. ベンネット博士

１８８４年10月6日に創設された関東学院は、今秋１２３周年を迎えます。その長い学院史の中から学院の「奉仕教育」における重要な切り口を求めるとすれば、第一は、関東学院の起源である横浜バプテスト神学校の校長であったアーノルド・A・ベンネット先生であります。アメリカの北部バプテスト教会の宣教師であった彼は、日本の近代化の中で最も不安と動揺が高まっていた１８８４年に、横浜の山手に「横浜バプテスト神学校」を開設しています。当時、教授陣は校長を含めて三名、生徒数は五名という中で、彼は多くの業績を残し、多くの人々を愛し、また人々から愛されました。彼の墓石には、〝He lived to serve〟（彼は奉仕の人であった）と刻まれています。第二は、初めて「関東学院」という名を付した学校を横浜に創設した初代学院長、坂田祐先生に求められます。１９１９年1月27日、横浜開港記念会館で行われた「私学中学関東学院」設立披露会の席上で、校名の由来を「訓令12号下（公教育機関での宗教教育を禁じた）においてもキリスト教主義にしたがった道徳教育をなすためであった」と述べています。そして、4月の第一回入学式においてその教育理念を「人になれ　奉仕せよ」と表し、関東学院の校訓とされたのです。

関東学院セツルメント「労働学校」と坂田祐・渡部一高両先生

学院創設史を通して、形成されてきた「建学の精神」を見るとき、そこに示され

関東学院学報　No.34　＜目次＞

CONTENTS

「関東学院の教育について」……1
―関東学院の伝統と奉仕教育―
森島牧人 学院長

関東学院の源流を探る―26……3
W.L.ヒンチマン元学院長

建学の精神を生きる「OBに聞く」……7
東京歯科大学 学長　金子 譲 氏
副学長　薬師寺 仁 氏

特集連載1……11
三世代が関東学院に学ぶ

関東学院125年の新たな一歩に向けて……15

キリスト教と文化研究所の近況報告……16

KGU研究活動の最前線……17
環境教育ISO14001の取り組み

ラグビー部の春口廣監督が出演!!……18
NHK教育テレビ「知るを楽しむ 人生の歩き方」

関東学院各校NEWS……19

学院役員・教職員人事……25

生涯学習センター講座紹介……28

編集後記……28

主な学校行事予定（10月～3月）……29

［カバー・ストーリー］

「テンネー礼拝堂（旧小講堂）」について

「テンネー礼拝堂」は、1929年に建てられた中学校本館の3階にあります。「テンネー礼拝堂」と呼称されたのは、1997年からです。それまでは、「小講堂」と呼ばれていましたが、戦前から礼拝堂として使用されています。中学校本館の設計は、J. H. モーガン（Morgan）で、1992年に横浜市の歴史的建造物に認定されました。

チャールズ・バックリー・テンネー博士（C. B. Tenny）（1871～1936）は、アメリカン・バプテスト・ミッショナリー・ユニオンの宣教師として来日し、関東学院の礎を築かれた人で、中学関東学院の設立者です。テンネー博士が作詞作曲した「College Song」は現在も歌われていますし、2004年竣工の金沢八景キャンパス1号館および同年改築の2号館のガラスデザインにはテンネー博士による「A New Gate and Roadway」を用いる等、同博士は今なお関東学院に息づいています。

ている「奉仕教育」こそ、関東学院教育の特色であることは明らかであります。

関東学院らしさの原点

関東学院が昭和初期（1931年4月25日）、横浜に「セツルメント」を開いたことは、『関東学院百年史』にも記載があり、多くの方に知られています。このプロジェクトは、アメリカから帰国してすぐに関東学院の社会事業部教授となり、精力的に学生の教育に当たられた渡部一高先生、平和主義者として関東学院で教鞭をとり、日本をこよなく愛しながらも日本兵によりフィリピンで殉教されたJ・H・コベル先生、日本における社会的キリスト教の先駆者の一人であった友井楨先生等が中心となり、当時の関東学院の社会事業部や神学部の学生たちがそれに積極的に関わった、ひとつのユニークな教育プログラム、教育的試みでありました。これこそ「関東学院らしさ」、関東学院の歴史において、その神学教育史と共に決して忘れてはならないものであります。この神学教育とセツルメントこそは、〝He lived to serve〟とその墓石に刻まれたベネット先生と学院の校訓「人になれ　奉仕せよ」を残された坂田先生の教育における精神を具現化したものにほかならないからです。関東学院らしさのルーツ、関東学院教育の原点であります。

いま、特に関東学院のセツルメント運動に思いを馳せるならば、それは単なる幻ではなく、明確な教育理念に基づいた関東学院教育の「実験教室」であったと言えます。それは、社会福祉に関する高邁な理念を教わる場であっただけでなく、単に弱者への同情心を育んだというようなものでも、慈善・愛憐に尽くすことを教えたものでもありません。それは共に生きる只中で、それぞれが一個の人間として共に学びあい共に成長しあう場、その意味での関東学院教育の現場であり、建学の精神の実験室であったのです。言葉を換えるならば、関東学院セツルメントは、関東学院史における「異なるもの」理解への神学的・実践的試みへのプロローグであったと考えることができます。ゆえに、学院のアイデンティティ、学院の個性の構築が叫ばれる昨今、わたしどもが〝Service Learning〟という観点から、このセツルメント運動を共に考えるということは、再度学院教育の理念とその実践を具体的に構築する第一歩になると、わたしは確信するのであります。

関東学院サービスラーニングセンター献堂式（タイ・ティワタ村）

Education of Kanto Gakuin, its tradition and service education
by Makito Morishima, Chancellor of Kanto Gakuin

The history of many Christian schools including Kanto Gakuin has not always been peaceful, and even now, Christian schools are facing difficult times. This can be compared to a yacht racing against the wind. Christian schools should not rely on their own strength and prosperity but on God's guidance. Kanto Gakuin deserves to be proud of the fact that this institution has continued to worship God, even during times of hostilities and trouble.

Christian education at Kanto Gakuin can be characterized in the school motto, "Be a man, serve the world". It means that through encounter with God of the Universe, people can serve others. Since no particular course to learn the spirit of service has yet to be established, it is essential for Kanto Gakuin to shape and activate our school motto now.

This is the 123rd year since Kanto Gakuin was established on October 6, 1884. During this long history, Arnold A. Bennett, the first President of Yokohama Baptist Seminary was a good model in considering service education. He loved many people and was loved by many, and on his gravestone, the phrase "He lived to serve" was engraved. Moreover, Dr. Tasuku Sakata, the first Chancellor of Kanto Gakuin dedicated his life to service education as well. His idea of education was presented as "Be a man, serve the world" which has been the school motto since that time.

It is widely known that Kanto Gakuin established a "settlement" in Yokohama on April 25, 1931. This project was begun by Dr. Kazutaka Watabe, Professor of the Department of Social Business, Dr. J. H. Covell, later martyred in the Philippines, and Dr. Tei Tomoi, one of the pioneers in the field of social Christianity. Besides these men, the Department of Social Business and seminary students became involved in this project. This project crystallized the spirits of Dr. Bennett and Dr. Sakata and should be remembered in the history of Kanto Gakuin.

The project called "settlement" can be considered as an experimental course of Kanto Gakuin's education. It was the place where people learned and grew together in the community. In other words, it became the prologue to understanding differences. Therefore, from the viewpoint of "Service Learning", it is quite important to consider this first settlement activity in order to build upon the theory and practice of the education of Kanto Gakuin.

関東学院の源流を探る 26

学院宗教主任／経済学部教授
高野 進

ヒンチマン博士

ウイリアム・L・ヒンチマン博士

Dr. William Lee Hinchman（1921-2001）

元　関東学院学院長・米国バプテスト宣教師

愛の人・平和の人

金沢八景キャンパスにある大学礼拝堂の正面入り口の上部に、ギリシア語の文字が記されている。「ホ セオス アガペー エスティン」（「神は愛なり」ヨハネ第一の手紙四章八、一六節）の言葉である。これは当時の学院長であったヒンチマン先生が、一九八九年にこの礼拝堂献堂にあたり、選ばれた聖書の言葉である。先生の愛誦聖句でもある。先生はこの言葉の意味を文字どおり実践した人であった。すぐれた包容力があり、先生と親しく話すことができた人は、だれも先生を愛するようになった。また先生ご自身は微笑みをいつも浮かべており、だれにでも話しかけることができた。それゆえ、日本人ばかりか、世界中に多くの友を持つことができた。今日「外国人」という言葉が、差別用語に近い響きを持ってきている。先生は多くの日本人よりも長く日本に住んでいたし、その語る日本語も洗練されていた。物腰も日本人の雰囲気を醸し出していた。そして日本をこよなく愛していた。今日、「知日家」の外国人は多い。しかし先生はまことに「愛日家」「親日家」であった。

後に日本大学教授になられた石井勉氏は、若き日に先生に出会った時のことを、次のように記している。

「戦後の東京は貧困と混乱に満ちていた。価値観が崩壊し、人格形成が確立していないまま社会に放り出された私は、人生とは何か、自分のアイデンティティを求めつつも、心は満たされず、精神的に飢え渇き、あまつさえ、時の無意味な経過に焦慮の念に駆られていた。

そんなあるとき、知人の勧めで、三崎町教会の金曜夜のバイブル・クラスに出席した。これが先生との出会いとなった。これまで出会ったことのない慈愛に溢れた眼差し、暖かい静かな愛、確信に満ちた言葉で語る比類なき人格に接し、私の魂はすっかり魅せられてしまった。先生は何よりも愛の人であった。」（『神へのかけ橋』キリスト新聞社）

先生が平和の人である、という証拠も挙げることができよう。

先生が大学二年生の時に、日米戦争が勃発した。先生は市の徴兵委員会から徴兵通知を受けている。そのとき、先生はこう祈った。「神さま、教えてください。日本人、ドイツ人を殺すことは、みこころですか。」祈れば、祈るほど、戦争は神のみこころではない、とわかり、先生は、他の奉仕ならどんなことでも喜んでいたします。しかし人を殺すことは良心的にできない、と兵役を断っている。やがて徴兵委員会から手紙が送られてきた。その文面は「あなたのことについて検討しました。あなたのような人も国のために必要です。大学で勉強を続けなさい。」であった。先生の住んでおられた地域で、良心的兵役拒否者として認められたのは珍しかった。当時、このような行動は、大きな勇気を必要とした。

実際、第二次世界大戦中に、先生が「真の愛国心」と題して説教し、「私たちクリスチャンは敵を愛するように召されているのであるから、このような時こそ、より忠実なイエスの僕（しもべ）とならなければならない。また私たちの国は、現在、そのようなクリスチャンを必要としている」と述べた。これに対して、ある人が「ヒンチマンはドイツ人だ、スパイだ」とうわさを町中にふれまわった。しかしその人は、戦争が終わってから、先生のところに謝りに来ている。この方は四人の息子が徴兵されて戦場に送られ、その中の一人が戦死していたという。先生は、その人の気持ちもわかるような気がします、と振り返って語られている。

一九八三年に、先生は東京の中心部で伝道を開始している。そしてこの教会を「東京平和教会」と呼ぶことにした。この教会には、いろいろな国籍の人たちが参加できる寛大さがあり、今でも、英語礼拝、ミャンマーの人たちの礼拝も行われている。また韓国の教会と姉妹関係を持っている。今年、東京平和教会は創立二五周年を迎えた。ミャンマーの人たちの集会も開設一五周年を迎えた。

来日まで

ヒンチマン先生は、一九二一年一二月一日にアメリカ合衆国ウエスト・ヴァージニア州ローガン郡ローガン市近郊のマンに生れた。ウエスト・ヴァージニア州は合衆国の東部中央に位置する小さな州である。この地域はもともとヴァージニア州の一部であったが、ここの人たちは、南北戦争の時期に、奴隷制度に反対して、南部連合に属さずに、北部連邦（ユニオン）に加わった。このためヴァージニア州と袂を分かち、今日のウエスト・ヴァージニア州が生れた。アメリカ合衆国の中でも、もっとも小さな州の一つである。アパラチア山系の中にあり、面積の七五パーセントが森林である。オハイオ、ペンシルヴェニア、メリーランド、ケンタッキー、ヴァージニアの五つ

の州に接している。経済的には、州民の所得が全米平均よりもかなり低い。しかし犯罪が少ないことは誇れるであろう。この州のニックネームは「マウンテイン・ステート」（山岳州）、モットーは「山岳人は常に自由である」（ラテン語でMontani Semper Liberi）という。そういえば、ヒンチマン先生も自由な人であった。

ローガン郡ローガン市は、州の中では南に位置している。先生はその町から南に十キロのマンで生れた。この「マン」という地名は「ヒンチマン」を省略したものだという。先生の祖先が、ドイツからイギリスを経てここに住み着いた。先生はその地が「山の中の景色のいいところで、アメリカのスコットランドといわれています」と言ったことがある。ペンシルヴァニア・ダッチといわれる人々は、ドイツ人で、彼らは後に隣のウエスト・ヴァージニア州に移り住んでいる。先生は「家族は、ドイツから早い時期にアメリカに来たので、たくさんの土地を持った、恵まれた家庭でした」とも述べている。

一九三九年に地元のローガン高等学校を卒業、隣の州のケンタッキー州のベレア大学に進んだ。この大学の所在地、人口一万にもならないこの町は、正しくは「ブリア」と発音するのだが、新約聖書使徒行伝一七章一〇、一一節に基づいて、命名された地名なので、聖書の表記を使うことにしておこう。「ここにいるユダヤ人は、テサロニケの者たちよりも素直であって、心から教えを受け入れ、はたしてそのとおりであるかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。」このように、熱心なキリスト教信仰者たちがこの町を始めたのであろう。

この町にあるベレア大学は、南北戦争の直前の一八五五年に創立されている。この大学はアメリカ南部で最初に黒人を受け入れ、早くから男女共学を開始している。進歩的な学風を持つ。また能力はあるが、貧しい若者のために奨学金を用意し、大学内で仕事を与えて、学業達成の道を開いているので有名である。全米大学の評価でも高い位置にある。その校訓は「神は、ひとりの人から、あらゆる民族を造りだした」（新約聖書使徒行伝一七章二六節）である。早くから人種差別を撤廃していた大学である。ここでの学びは、青年ヒンチマンに大きな感化を与えていることが推測できる。社会学と哲学を専攻した。

大学一年生の時に先生はユニオン・タバナクル教会に出席して、やがてバプテスマを受けた。大学では、後にキリスト教の歴史学者となったW・エステップ（サウス・ウエスタン・バプテスト神学大学院教授）と祈祷会と証の会を行った。やがて八十人の学生が集まるようになり、その中から牧師や宣教師になる者が多く出てきたという。

先生は大学卒業後、西隣に隣接するケンタッキー州の南部バプテスト神学大学院に入学した。この神学大学院は一八五九年創立されている。南部バプテストの神学大学院のなかではサウス・ウエスタン・バプテスト神学大学院に次ぐ大きな学校である。宣教学、説教学の分野で優れた伝統がある。第二代の学長、ジョン・A・ブローダス博士は説教学についての講演をイェール大学で行っている。この説教学は、やがて千葉勇五郎博士によって邦訳された。ここでは、先生は特に旧約聖書を専攻されている。

先生は、一九四七年に卒業して、宣教師としての任命を受けた。日本語はカリフォルニア大学バークレー校で研修している。

一九四九年一月、奥様のナディン先生とともに貨物船「フライイング・スカッド」号にて横浜に到着した。

関東学院との結び付き

ヒンチマン先生は、戦争中のことを思い起こしてこう述べる。

「日本における私の宣教活動の準備は、忌まわしい戦争によってすべての国の膨大な数の人々の心が麻痺していた第二次世界大戦の最中に、アメリカで始められた。世界中が何らかの和解の道を探ろうともせず、戦争行為による憎しみや殺し合いを容認しているような時代にあって、クリスチャンの責任の大きさを痛感した。狭い国家主義、奢り、偏見、不信、そして憎悪などが、あたかも醜い怪獣の命令に従うかのように、日々膨れ上がっていった時代であった。」

その時期に、先生は日系二世の大学生と知り合ったが、彼が日本人の親を持つということだけで、まことに辛い経験をしていることを直接に見聞きした。日本人にキリストを伝えるのは、このときが初めての経験であったが、そのような周囲の状況が穏やかでない時期に、神は自分に日本にやがて行くように語りかけておられることを実感したという。

先生ご夫妻は、一月のきびしい寒さの時期に、東京の世田谷区下馬町にあった古い宣教師館に住むことになった。ここは戦争中も日本に残ったグレセット先生がおられたところである。当時の日本中の家がそうであったが、宣教師館には暖房設備がなく、ベッドのマットは薄く、しかもわずか数枚の毛布があるだけだった。奥様は身重であったのに、食料も乏しく、常に空腹を感じていたという。当時は、日本人のための食料も十分ではないということで、宣教師たちは日本の店で食料品を買うことができなかった。アメリカ人は占領軍を通して手に入れることはできたが、宣教師に限ってそれはできなかった。先生ご夫妻も、自分たちは占領軍の一部ではなく、あくまでも日本人と共に歩む宣教師として生きようとされた。そのためご夫妻はアメリカから持参したわずかな缶詰の粉ミルク、粉末卵などで飢えをしのいだ。やっと春になって、庭を耕して野菜を作ったところ、期待以上の収穫であった。その時にご夫妻は神に感謝を捧げた。「とりたての野菜は新鮮で、生き返った思いがした」と自伝に述懐されておられる。

来日当初、先生ご夫妻は、関東学院の理事長をされたこともある名誉東京都民第一号のアキスリング夫妻としばらくの間、同居された。ヒンチマン先生ご夫妻はこのようにしてアキスリング博士から大きな感化を受け、責任のバトンを受け

先生の式辞と説教をまとめた著作

継いだ。一九五〇年春にアキスリング博士がご高齢のために引退されて、ヒンチマン先生が後任のアメリカ・バプテスト宣教師主事に選ばれ、同時にアメリカ・バプテスト本部からフィールド・セクレタリーに任命された。先生はこれを一四年間つとめられた。

一九五一年から一九六七年まで、アメリカ・バプテストからの代表として、先生は学校法人関東学院理事をされた。この時期に、先生は関東学院のその後の発展の拠点地の入手のために大きな貢献をされた。一九九一年に葉山セミナー・ハウスにおいて、先生は「戦後の関東学院」と題して講演している。これは後に続く人々にも知っていただきたいこともあってか、かなり詳しく講演されている。少々長いが引用しておきたい。

「今から四十年前の一九四九年、私は初めてこの関東学院六浦キャンパスを訪れたのですが、そのときの印象を正直に申し上げるならば、私は、本当に驚き、同時にがっかりしてしまいました。六浦キャンパスに建っていたいくつかの校舎は、殺風景なバラックで、何の色彩もなく、醜い怪物のようでした。しかし、私は、そのような惨めなキャンパスの状況は、当時の日本のどこでも見られるような、戦争の後遺症であることをすぐに理解しましたが、それでもなお、私は、このような醜い環境で、学生がどのようにして学び、また先生方もどのようにして教育しているのかと考えずにいられませんでした。しかしそのときに、私はそこで、当時の学院長の坂田祐先生と、大学長の白山源三郎先生、その他のたくさんの先生方に初めてお目にかかり、先生方の素晴らしい人格とその信仰を直感的に知ることができました。…

このような素晴らしい日本の先生方の他に、当時、関東学院で教えていた幾人かの宣教師の働きを知って、私は心を打たれました。彼らもまた、この学校の喜びと苦しみを共にしてきた人たちでした。ウィラード・タッピング夫妻だけは第二次大戦の前から日本で働いていたのですが、スターリング・ビース夫妻、ビクター・ハンソン夫妻、マーガレット・コールダー女史は、中国の共産党革命以前にバプテストの上海大学で教えていた人たちでした。アメリカ・バプテストと南部バプテストの協力によって大きく発展したその大学は、革命と同時に、反アメリカ、無神論という惨めな状態になってしまいました。…強制的に国外追放された宣教師たちは、日本に渡り、関東学院でその働きを続けました。…

ヒンチマン先生一家

財務担当の宣教師として、ビース氏が日本宣教のために送られたのですが（『学報』三二号に博士の評伝を掲載している―筆者注）、彼は、戦後日本政府から借り受けていた六浦キャンパスを購入するための資金をアメリカ・バプテスト海外伝道協会から出していただくために、私のよい協力者になってくれた。またアメリカから膨大な費用が送られてきたとき、私は彼とともに東京の大蔵省に赴き、そのキャンパス購入のための小切手を差し出しました。その後、そのキャンパスの東側の小高い丘と周辺の土地も購入することができ、そこに三軒の宣教師館が建てられた。その丘は、当時、その購入のために努力した宣教師の名をとって、今でも「ハンソン山」と呼ばれています。（ここはやがて女子短期大学になり、現在の人間環境学部となっているキャンパス―筆者注）…私は、あの戦後の混乱期にあって、様々な苦難に耐えながら、忠実に働いてこられた宣教師をはじめ、日本の先生方、また学生の皆さんに心からの敬意をいだかずにいられません。これらの人々こそが、素晴らしい学校としてますます発展しているこの関東学院の基礎を築いたのです。」

先生は一九五三年から一年間、関東学院大学にあったキリスト教研究所において旧約聖書を教えた。休暇帰国中には、イェール大学神学大学院で研鑽されておられる。ここは多くの神学者や宣教師を送り出してきた名門である。先生は関東学院大学にあった神学部で牧会学を教えるように求められたため、その関連分野の再研修につとめた。一九六七年にはバークレー・バプテスト神学大学院とカリフォルニア・バプテスト神学大学院で研究された。一九六九年にはウエスト・ヴァージニア州のオールダソン＝ブローダス大学から神学博士号を授与された。その大学は夫人の出身校でもある。丘の上の美しい大学である。この大学は関東学院と同じくアメリカ・バプテスト教会と関係があり、一八七一年に創立されている。しかし残念ながら、先生にとっては、一九六九年に大学神学部は閉鎖されたために、その教壇に立つ予定は実現しなかった。しかし一九七〇年から一九八八年まで学校法人関東学院監事としての職責を果たされた。

一九八八年八月に、先生は学校法人関東学院の学院長になるよう要請を受けた。先生が隠退後に書かれた英文の回想録によって、先生の当時の思いをたどることにしよう。

先生は学院内にそれにふさわしい学識を備えた方々がいるのではないかと考え、その要請をお断りした。一世紀前なら外国人宣教師がそのような任に就くこともあったが、今の日本は教育レベルが高く、経営は日本人の手にあるので、それは時代に逆行することのように思えた。先生はこのことについて、神のみこころを知りたいと祈り続けていた。しばらくして、息子のマークさんから、先生が何千人もの人々の前に立っている姿を幻に見た、とアメリカから電話してきた。「お父さん、これはどんなことなの？」先生は神からの導きや、このような電話を受けて、関東学院での働きの申し出を受けることにされたという。

元文学部教授・大学宗教主任であった大島良雄先生と筆者が、学院長就任にあたって、先生のお宅でインタビューしたときの記事は、大学宗教教育センター発行

『告知板』一九九号に掲載されている。先生の落ち着いた言葉が思い出される。

「関東学院に行くことになろうとは、思いも及びませんでした。八月の終り頃にご依頼のお話がありました。関東学院は私たちにとって重要な存在ですから、お引き受けすることになりました。私はどのようにすべきか、祈った後に、学院の所期の目的達成のためにできるだけのことをしたいと決心しました。」

一九九二年一二月に先生は学院長を退任、翌年一月に帰国された、アリゾナ州に住んでおられたが、二〇〇一年一〇月七日に天に召された。

二〇〇一年一〇月二五日に本学院で先生の追悼記念会が行われた。令嬢のメアリー・ヒンチマン・シャヴェリさんは、その会のためにご挨拶の手紙を送ってくださった。

「父、ビル・ヒンチマンの心には、関東学院の懐かしい思い出がいっぱい詰まっておりました。関東学院に関わる人々は、キリストのみ霊の助けにより、日本のため、また神の国のために、働いているのであります。父は、この働きを、人間がなすことのできる、もっとも大切なものと受け止めておりました。父は、ほとんど毎日のように関東学院のことを話しておりました。父が、どんなに関東学院を心から愛し、仕え、祈っていたかを、お伝えいたします。

また関東学院の将来性と重要性について、確信を持って、熱心に語っておりました。父は、関東学院に奉仕できたことを、大変な名誉としておりました。関東学院の皆様には、まことに名誉ある仕事を父に与えてくださいましたことを、私としても、感謝申し上げます。父は、関東学院の理事の一人として、また学院長として、多くの貴重な体験させていただきました。これにより、父は多くのことを学びました。個人的な意味でも、成長したのであります。こうして、父は、キリストの僕（しもべ）とならせていただき、関東学院に奉仕することができたのであります。」

建学の精神について―先生の理解

先生は、関東学院長在任中にいろいろな機会において関東学院の建学の精神を説き明かした。キリストの源から力を得て人格形成と精神的成熟をはかり、キリストの愛に押し出され、支えられて、奉仕に向かうのである。それゆえ、校訓がキリスト教の信仰と生活に深く根拠を持つものであるとする。それが単なる道徳訓であれば、「徳目」「お題目」に堕す。そして心のこもらない冷たい「奉仕」は「強制」「義務」として行われることになるという。

「今日、関東学院に関わるすべての方々に、心に留めておいていただきたい、大切なことを、二つ記しておきたいと思います。その一つは、それがキリスト教教育と結びついて推進されねばならないことです。これは神への信仰と人々への奉仕ということで具体化されます。先ずこれは、教育の現場である教室の中ではもちろん、学校生活全体を通して、実践されなければならない、と考えております。こうした建学の精神とキリスト教教育の推進という二つの事柄は、決して矛盾することなく、本学院に生きております。」（B・L・ヒンチマン『神は愛なり』一九九二年）

先生の説教と思い出集

私たちは、先生の残された足跡とメッセージからたくさんのことを学ぶことができる。

Dr. William Lee Hinchman

Dr. W. L. Hinchman was one of the first American Baptist missionaries to see the wretched situation of the post-war Kanto Gakuin in 1949, and he made a great contribution in procuring its central campus. After 40 years as a Chancellor of Kanto Gakuin, he was able to witness with the praise to God and the happiness in his heart its wonderful development

Dr. Hinchman was born in the suburbs of Logan City, West Virginia of the U.S.A. on December 1, 1921. He went to Logan High School. In 1938, when he was a senior in the high school, he attended an evangelistic meeting at a neighboring church. He felt deeply two things: that God loved him as a person, sinner though he was, and that a right relationship with others was to be found in Christ. During his days in the Berea College, Kentucky, his close friend, William R. Estep and Hinchman started the short prayer meeting during the lunch hour every day. Eventually as many as 80 students attended the meeting. Out of these attendants many students became ministers and missionaries. After graduation from the college the two leaders, Dr. W. R. Estep and Dr. Hinchman went to the Southern Baptist Theological Seminary, Louisville, Kentucky. Later Dr. Estep became a distinguished professor of church history and chairperson of the Historical Division, School of Theology, Southwestern Baptist Theological Seminary, and Dr. Hinchman was sent as a missionary to Japan and worked for 44 years.

He studied Japanese language at the University of California at Berkeley, and arrived at Yokohama on the third of January, 1949. The Hinchmans watched and experienced the desperate situation of the early post-war Japan. He wrote as follows, “In January 1949, Tokyo was mercilessly cold ……we stayed with Dr. and Mrs. William Axling, sleeping on thin canvas cots which invited the moist frigid air to penetrate our beds. This elderly couple, both aged 76 then, had served as outstanding missionaries in Japan since 1910. Their severe life style revealed their determination to share the poverty and hardship of the Japanese people in the early post-war period.” Dr. Hinchman learned a dedicated life from this mentor couple.

In 1949 he first visited the present Kanazawa Hakkei Campus which was then on lease. He was shocked with the wretched conditions of the school. But he was greatly impressed with their Christian faith and characters of Chancellor Sakata and Dean Shirayama. Since then Dr. S. Beath, the missionary-professor, and Dr. Hinchman made strenuous efforts in persuading the American Baptist Missionary Society to purchase the land.

As Dr. Hinchman majored in the Old Testament studies, he taught the Old Testament when the Kanto Gakuin started the Institute of Christian Studies which aimed to train Christian ministers for the post-war Japan. Later this institute was approved as the college of theology by the education ministry of the Japan's government, and he was asked to teach pastoral studies and he retrained himself for the new teaching position. But owing to the havoc-making student revolt in the late 1960's, the college of theology was dissolved in 1969, he was again in the actual field of missions.

In1988 he was appointed to be Chancellor of the Kanto Gakuin School System. At that time, he first declined this proposal. He wrote later like this. “Could such a development be in accord with God’s will and purpose?.....for a foreigner to be head of the school seem to be a needless step backwards.” Later, however, he was convinced: “The Lord thus put me into a position which, though fraught with perils, clarified the Divine Will.”

“God is love.” Dr. Hinchman quoted this verse from the Bible for the entrance of the newly built chapel in the Kawazawa Hakkei Campus which he worked for its purchase in his early days in Japan.

He was an embodiment of this verse. He was a man of love and receptivity. Whoever talked with him began to love and respect him. He was always friendly with amiable smiles on his face. He talked softly and calmly and won friends all over the world.

Before he was called out of this world to be with the Lord, he wrote memoirs of his life. Its title was “Making Brothers.” He was an expert on making friends. He contributed in establishing “Tokyo Peace Church” in the Waseda Hoshien (the Garden of Service). This congregation still consists of people of different national backgrounds. Through making friends, he was trying to make a breakthrough into the Japan’s societies which have been impervious to the Christian gospel.

I N T E R V I E W

建学の精神を生きる「OBに聞く」

「歯科医師になる前に人間になれ」

東京歯科大学　学長　**金子 譲** 氏

東京歯科大学　副学長　**薬師寺 仁** 氏

（聞き手　関東学院　理事長　内藤 幸穂 氏）

内藤　関東学院へは、どのような理由で入学されたのですか。

金子　当時、私は保土ヶ谷に住んでいて、公立岩崎小学校に通っていました。担任の森永先生の息子さんが、関東学院に通っていらして、いい学校だからと勧められ、1951年（昭和26年）に関東学院中学校に入学しました。それから高校卒業までの6年間、関東学院で学びました。

薬師寺　当時、私は平潟湾対岸の洲崎に住んでいました。近隣の子どもは、公立金沢小学校に入学しました。ですが、親父が、その当時、公立の小学校は児童数が多く、三部授業をしておりちゃんとした教育が受けられないから、今度開校される関東学院小学校へ行けというので、1949年（昭和24年）に第一期生として入学し、さらに六浦中学校・高等学校に進学しましたので、高校卒業までの12年間を関東学院で学んだことになります。

内藤　関東学院での思い出をお聞かせください。

金子　今でもよく覚えているのは、校長の坂田祐先生、美術の水船六州先生、聖書の八木一男先生、英語の友井篤先生です。

水船先生は、日展にもよく出展されていた画家で、豪快な先生でした。八木先生は、子ども心にアインシュタインのような人だと思っていました。中学校のときに聖書の話、確か「モーセの十戒」のリポートに「そんなことありえないと思います」と書いたら、後で呼び出されて、じゅんじゅんと諭されたことを覚えています。（笑い）でも細かいことは忘れますが、核になることはちゃんと残っていますね。

（株）ニコン社長の苅谷道郎さんが、学報前号のインタビューで、友井篤先生の自宅で開かれていた塾で英語を学んだことを語っておられますが、私も同様に先生の塾で学びました。苅谷さんの方が、3歳若いのですが、どこかでお会いしているのでしょうね。

心に強く残っているのは、坂田先生のお言葉で校是となっている「人になれ　奉仕せよ」です。人間の生き方として大切なことであり、立派な言葉なので大事にしています。

東京歯科大学 学長　金子 譲 氏

薬師寺　小学校の初代校長は、坂田先生でした。直接教わったり、校庭でいっしょに遊んだりした思い出があります。5年生の箱根大涌谷（冠峰楼）、6年生のときに行った清泉寮での修養会が楽しかったことを思い出します。

六浦中学・高校時代の思い出は、新聞部の部長を務めて『学校新聞』を編集・発行したことです。高3の大学入試直前まで新聞編集を熱心にやっていたものですから、担任の島田澄子先生から大学に合格できないぞと怒られました。現在教頭の長谷川洋三先生は、中・高校時代の

関東学院史年表（1945年～1963年）からの抜粋引用

1945年（昭和20年）
5月29日、横浜大空襲によって、建物・設備の四分の三が焼失破壊された。9月に焼け残った中学部校舎で授業再開した。

1946年（昭和21年）
1月、中学部、横浜市磯子区六浦（現在の金沢区六浦東）に移転した。

1947年（昭和22年）
4月、新制中学校（男女共学制）が設立され、校長に清水武が就任した。

1948年（昭和23年）
3月、新制高等学校が設立され、校長は坂田祐が兼任した。

1949年（昭和24年）
中学・高等学校が三春台に復帰し、六浦校地には一部分校として残った。この年、小学校が六浦校地に新設され、校長に坂田祐、主事に村田汎愛が就任した。この年、新制大学（経済学部・工学部）が設立され、白山源三郎が学長に就任した。

1950年（昭和25年）
4月、六浦分校に高等学校を設立した。

1951年（昭和26年）
3月、財団法人関東学院の組織が変更し、学校法人関東学院となった。国有の六浦校地、校舎の払下げを受けた。

1952年（昭和27年）
4月、六浦中学・高等学校は、隣接の現在地に移転した。三春台に小学校の分校が開校され、主事に水船六州が就任した。（1963年に校長就任）

1953年（昭和28年）
六浦校地の高等学校・中学校を本校から分離して、独立校とし、六浦高等学校・中学校とした。中学・高等学校長に、栗沢竹雄が就任した。この年、小学校三春台分校を独立させ、小学校と改称し、六浦校地の本校を、六浦小学校と改称した。

1962年（昭和37年）
六浦小学校長坂田祐に代って、下平千太郎が就任した。

同級生です。天城山荘での修養会を思い出しますね。

学院での生活は、毎朝の礼拝から始まりました。そのこともあって、高校卒業後6～7年間は、自宅近くの教会の日曜学校に通っていました。大学在学中に当時の校長の下平千太郎先生から依頼されて、六浦小学校同窓会の初代会長を務めました。

薬師寺　1955年頃、六浦の中高校舎は、旧海軍施設を利用していましたが、私が入学した年に中学校では、ブロック建築平屋の新校舎ができ、そこで授業を受けましたが、高校になったら、校舎は、寮を改造した二部屋の宿舎をぶち抜いた教室で、中央に柱があり、その影で黒板の字が見えない席があって、みんな座るのを嫌がったものです。（笑い）

今でも時々、金沢に行くのですが、金沢八景（六浦）キャンパスの様変わりには凄いものがありますね。なにしろ私の小学生の頃は、今の柳町の部分は埋め立てられる前で、平潟湾でしたから。

内藤　**2009年の10月6日に関東学院は創立125周年を迎えることになります。記念事業の一環として、お二人の卒業された学校に新校舎が建ち上がります。2008年3月に三春台に中高新棟が、9月には六浦中高の新棟がそれぞれ完成する予定です。**

金子　125周年記念募金事業のご案内をすでにいただいているので、協力させていただきたいと思っております。

東京歯科大学も後3年で創立120周年を迎えることになります。高山紀齋先生を創立者、血脇守之助先生を建学者としています。血脇先生は、また、野口英世博士を物心両面にわたって生涯庇護をしたことから、後世、野口の恩人の一人として偉人伝に登場する人格者です。血脇先生の建学の精神を端的に表した校是は、「歯科医師になる前に人間になれ」です。この言葉は、坂田先生の「人になれ　奉仕せよ」に通じるものがありますね。

私は、気持ちの中にコアがないと決断がぶれることを学長に就任して特に実感しています。教育や診療の場でも自分に信念がないと前進できません。その核をどこに求めるか、やはり大学の歴史の中に求めることになります。歴史を紐解くとその重みを感じます。長い歴史のある学校は、最初の頃には、転々としたり、一緒になったり、成長・発展して行くわけですが、その過程で、坂田先生や血脇先生のような立派な人格者がどこかに必ずいらっしゃるのですね。

内藤　**なぜ歯科学に興味をもたれたのですか。金子先生は歯科麻酔学、薬師寺先生は小児歯科学のご専門ですが、それを選ばれた理由も教えてください。**

金子　戦争で父を亡くしていたので、小

東京歯科大学 副学長　薬師寺 仁 氏

学生のころ小田原に疎開していましたが、終戦後、父親の実家のある保土ヶ谷に戻りました。その頃、何人かの従兄弟がその実家に同居していたのですが、東京歯科大学に通っていた従兄弟の感化、影響ですね。

１８８４年は、関東学院の前身の横浜バプテスト神学校が創設された年ですから、関東学院にとっても重要ですが、医療にとっても記念すべき年です。それは、局所麻酔が発見された年だからです。オーストリアの若い眼科医がコカインの麻酔作用を発見しました。一般の人は、局所麻酔の発見の方が全身麻酔より先だと思われるでしょうが、実は、全身麻酔の方がアメリカの歯科医師によって先に発見されています。

当時、医学はドイツが進んでいましたが、歯科医学はアメリカが一番進んでいました。ですから横浜にアメリカ人歯科医師が来ていて、その人たちから習った日本人歯科医師も多いのです。馬車道にはその先駆者であるイーストレーキ先生の銅像がありますよ。

私は母校で、初めは口腔外科学を専攻したのですが、１９６４年に歯科麻酔学という新しい領域の講座ができることになりましたので、そちらに移りました。また同年、東京大学医学部で山村秀夫教授から麻酔学を学んだりしたのが契機で、一生歯科麻酔に携わることになりました。後年、障害者歯科医療に関わるのもこの歯科麻酔を専門にしたことが影響していると思います。

薬師寺　外祖父、父とも歯科医で、私は子どもの頃から奥歯にかぶせるクラウン（金属）を作る圧延機の操作を興味津々で手伝ったりしていました。三代目の歯科医ということになります。

大学院に進学し、小児歯科を専攻すると決めたとき、父親には小児歯科などやっても儲からないぞと反対されましたが、敢えて決めました。子どもが好きだったからでしょうね。

内藤　学院に学ぶ若い人へのアドバイスをお願いします。

金子　自分の打ち込めるものを見つけてほしい。力は段々ついてきますから、夢を持って気迫をもって生きてほしいですね。

薬師寺　学業以外にも打ち込めるものを持ってほしいですね。

関東学院 理事長　内藤 幸穂

Be a man before being a dentist

(Brief Profile)

Dr. Yuzuru Kaneko is a graduate of Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools. He became a dentist and has doctoral degree in dentistry. He is the President and Professor of Dental Anesthesiology at Tokyo Dental University.

Dr. Masashi Yakushiji is a graduate of Kanto Gakuin Mutsuura Junior and Senior High Schools. He became a dentist and has a master's degree in dentistry. His major is pediatric dentistry and he is a Vice President at Tokyo Dental University.

Dr. Yuzuru Kaneko entered Kanto Gakuin Junior High School according to his elementary school teacher's advice and studied there for 6 years. He remembers Dr. Sakata, Mr. Mizufune, and Mr. Yagi, a Bible teacher. His fun memory of school was that in the Bible class he wrote a comment on Moses' Ten Commandments saying that it was unbelievable. Then after the class, Mr. Yagi called him and scolded him. Moreover, the words of Dr. Sakata, "Be a man, serve the world" made a great impact on him. Dr. Kaneko presently serves as President of Tokyo Dental University. The founder of the University, Dr. Morinosuke Chiwaki, who helped Dr. Hideyo Noguchi, once said, "Be a man before being a dentist". Dr. Kaneko said that this motto was similar to the school motto of Kanto Gakuin. He believes that he found his foundation of life in the history of Kanto Gakuin that had several men of honor.

Dr. Masashi Yakushiji entered Kanto Gakuin Elementary School according to his father's wishes. When he was a pupil there, Dr. Sakata was principal, and he remembers his teachings and school trip as a 6th grader. His memory of Mutsuura Junior and Senior High Schools was to publish the school newspaper as the newspaper club leader. He was told by his teacher to study hard as he was perhaps too eager to work on the newspaper. Dr. Yakushiji said it was amazing to see the huge changes of Kanto Gakuin and the neighboring area compared to his time. Dr. Kaneko was influenced by his cousin, who was a student at Tokyo Dental University at that time. In 1884, a local anesthesia, cocaine, was discovered and it was a very important discovery for dentistry. He changed his major to anesthesiology in 1964 when he studied anesthesiology in Tokyo University.

Dr. Yakushiji is the third generation of dentists in his family. His parents disagreed with his becoming a pediatric dentist, but he chose this field because he liked children.

To students in Kanto Gakuin, Dr. Kaneko gave some advice. That was to find something interesting and to live life to its fullest. Dr. Yakushiji said that it was important to find something to do with passion as well as to study.

金子 譲（かねこ・ゆずる）氏プロフィール

1939年　横浜生まれ
1954年　関東学院中学校卒業
1957年　関東学院高等学校卒業
1964年　東京歯科大学卒業
同年　第35回歯科医師国家試験合格
1966年　歯科医籍登録
1968年　東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）修了
同年　学位受領（歯学博士）東京歯科大学
同年　東京歯科大学助手　歯科麻酔学講座
同年　東京大学医学部麻酔学教室（山村秀夫教授）に内地留学
1970年　東京歯科大学講師　歯科麻酔学講座
1973年　東京歯科大学助教授　歯科麻酔学講座
1975年　日本歯科麻酔学会認定医取得
1981年　フロリダ大学歯学部客員助教授
同年　山形大学医学部非常勤講師（～1982年3月）
1986年　国際協力事業団より専門家（歯科麻酔学）としてインドネシア国バジャジャラン大学に派遣される
同年　山形大学医学部非常勤講師（～2005年3月）
1987年　東京歯科大学教授　歯科麻酔学講座（～現在）
1994年　日本歯科麻酔学会理事長（～2000年度まで3期）
1998年　慶應義塾大学医学部非常勤講師（麻酔科）（～現在）
1999年　日本臨床モニター学会長
2000年　日本障害者歯科学会　学術大会長
同年　日本歯科医学会　副会長（～2003年3月）
2003年　（財）日本緊急医療財団　心肺蘇生法委員会委員（～現在）
同年　日本障害者歯科学会功労賞受賞
2004年　独立行政法人　医薬品医療機器総合機構専門委員（～現在）
同年　東京歯科大学　学長
同年　日本麻酔・薬理学会　学術大会長
同年　学校法人東京歯科大学　常務理事（～現在）
同年　日本歯科麻酔学会賞受賞
2006年　日本学術会議連携会員（歯学分野）（～現在）
同年　医道審議会専門委員（歯科医師分科会委員）
同年　国際歯科麻酔学連合　会長（～現在）
同年　Horace Wells賞（国際歯科麻酔学連合賞）受賞
2007年　日本歯科医学会会長賞受賞
同年　東京歯科大学　学長再任（～現在）

薬師寺 仁（やくしじ・まさし）氏プロフィール

1943年横浜生まれ
1955年　関東学院六浦小学校卒業
1958年　関東学院六浦中学校卒業
1961年　関東学院六浦高等学校卒業
1967年　東京歯科大学卒業
同年　第41回歯科医師国家試験合格
同年　歯科医籍登録
1971年　東京歯科大学大学院歯学研究科修了　歯学博士の学位受領
同年　東京歯科大学小児歯科学講座講師
1978年　東京歯科大学小児歯科学講座助教授
1988年　日本小児歯科学会認定医
1989年　東京歯科大学小児歯科学講座教授
同年　日本小児歯科学会研修指導医
1993年　厚生省外国人臨床修練制度による臨床修練指導歯科医
1998年　東京歯科大学小児歯科学講座主任教授
同年　千葉県歯科保健医療協議会委員
2001年　東京歯科大学歯科衛生士専門学校校長
同年　学校法人東京歯科大学　評議員
2003年　医道審議会専門員　歯科医師分科会員
同年　日本障害者歯科学会認定医
同年　千葉県小児保健協会副会長
2004年　東京歯科大学　副学長
同年　学校法人東京歯科大学　常務理事
2007年　東京歯科大学　副学長再任（～現在）
同年　歯科医師国家試験委員（第101回試験委員長）（～現在）

東京歯科大学

明治 23 年（1890）に誕生した高山歯科医学院は、関東大震災、太平洋戦争などの荒波を乗り越えて、東京歯科医学院、東京歯科医学専門学校、東京歯科大学と名称を変更しながら、医科の総合病院を併設するという、世界でも有数な大学として発展してきた。現在も日本の歯科医学、歯科医療をリードするとともに、米国、欧州、アジアの著名な大学、研究機関と連携し、学際的かつ先端的な研究を行っている。

野口英世と血脇守之助（東京歯科大学の建学者）

世界的な細菌学者であり、アメリカで活躍していた野口英世は、昭和 3 年（1928）に西アフリカ、ゴールドコーストのアクラにて逝去（51 歳）した。ニューヨークにある墓石には「1876 年 11 月 24 日・日本の猪苗代に生まれ、1928 年 5 月 21 日・アフリカのゴールドコーストに死す。ロックフェラー医学研究所正員、野口英世博士は科学への献身により、人類のために生き、人類のために死せり」と記されている。

明治 29 年（1896）野口英世 20 歳の時に出会い、その生涯を物心両面で支え続け、“野口の精神的な父”と言われた人物が、東京歯科大学の建学者の血脇守之助である。

特集連載 Vol.1

三世代が関東学院に学ぶ

～ファミリーは同窓生のように～

――本日お集まりいただいた西川家、根建家そして池上家のご三家の中で一番初めに関東学院に学ばれたのは、どなたでしょうか。

八重子　主人の西川浩です。残念ながら主人は、２００４年（平成16年）11月に逝去してしまいました。でも、主人の関東学院への想いには篤(あつ)いものがありましたので、今回のインタビューをお受けしました。

主人は、大正11年（１９２２年）３月に横浜で生まれ、関東学院中等部・高商部で学びました。明治43年に主人の父が、東京稲荷町に西川帽子店を創業し、その後、横浜伊勢佐木町に移転し、その店を主人が二代目として継ぎました。自分自身の持病と、帽子を被らないライフスタイルや車社会による商店街の変化を憂い、平成16年10月31日に完全閉店しました。逝去する20日前のことです。店は、横浜市内はもちろん日本全国からも著名人が来店されるほど有名でしたので、多くのお客様から惜しまれての閉店でした。閉店後すぐに倒れたので、本当にびっくりしました。２００３年に東京で開かれた放送大学主催講演会で「街の帽子屋さんから見た日本の戦前と戦後」と題して帽子とともに歩んだ81年を主人は語りました。逝去後、朝日新聞、読売新聞、神奈川新聞にもその人となりを掲載していただきました。

――ご生前にお話を伺えなくてとても残念です。お子様をご紹介ください。

八重子　２人おりまして、ここにいる長女のひろ子と次女の由紀子です。

ひろ子　わたしは、小・中・高校と三春台で学び、六浦の女子短大を１９７０年に卒業しました。思い出は、短大時代の２年間夢中になってやったバドミントンと、家政科の課題で縫い物など深夜までかかり提出物を完成させたことなどです。課外活動では、福祉部に入部して社会福祉を学びました。今、中途障害者支援センターでパートタイマーとして働いていますが、採用面接のときに関東学院の話をしたら安心してもらえた気がします。

――関東学院への進学理由はなんでしたか。

ひろ子　父が自分で学んで良かったから、私を小学校から入学させてくれました。わたしも良かったと感じたので、娘のひろみを小学校から入れました。小学校時代、坂田祐院長、水船六洲校長のお話を聞くのが好きでした。校訓「人になれ　奉仕せよ」が心に残っています。自分の生涯の課題だと思っています。

――根建ひろみさんは、西川浩さんのお孫さんになる訳ですね。

ひろみ　はい、そうなります。わたしは、小・中・高校と三春台で学びました。中・高校では、マーチングバンドに入りチアリーダーとして活動しました。１９９３年にはオランダで行われた第12回世界音楽コンクールにも出場しました。パレード部門で第1位金賞とショウ

バンド部門第1位金賞・審査員特別賞を受賞しました。指導してくださったのは、日本マーチングバンドの草分け的存在の広岡穣先生ですから、厳しかったですね。でも、キツイ練習をしなければ、全日本大会でグランプリや世界大会で金賞は取れないでしょうから、今にして思えば、良い思い出です。

――ひろみさんのご主人の根建潤さんとの出会いをお聞かせください。

ひろみ　わたしが小学校6年生のときに潤さんが、転校してきて、クラスがいっしょになり、わたしの隣の席に座ったのですよ。

――それは、凄いですね。そのときにもう運命的な出会いを感じられましたか。

ひろみ　あの…、アルファベット順ですね。西川のNと根建のNですから。自己紹介をしなければならないから、しかたなく話をしたんです。（笑い）

――潤さんは、6年生からの転校で苦労はありませんでしたか。

潤　僕は、地元の公立小学校からの転校ですが、違和感なく入れました。みんな歓迎してくれました。関東学院の良さかもしれませんね。実は5年生のときに親から中学受験をするよう言われていたのですが、ちょうど小学校が定員を各学年4名ずつ増やすことになって、僕が6年に、弟は4年にそれぞれ編入試験を受けて入学しました。でも悲しいことがありました。入学してすぐに僕の祖父が亡くなったからです。

――きょうは、潤さんのお父様の根建守さんにもいらしていただいておりますので、その頃のことを伺いたいのですが。

守　あの時は驚きました。まだ潤が入学して間もない4月25日に父が逝去したのですが、その葬儀に水野哲太郎校長はじめ4年6年のクラス担任の先生方とPTA代表の方が参列してくださったのです。そういうところが関東学院の校風でしょうね。暖かいと改めて感じました。

――守さんも関東学院の卒業生でいらっしゃいますね。思い出をお聞かせください。

守　僕は、中・高・大学と関東学院でした。中学校に進学した理由は、小学校6年生のときに父から関東学院を受験しろと言われたからです。毎日曜日に模擬テストを受けながら勉強したので大変でした。ですから合格したときは嬉しかったですよ。僕の弟も関東学院の卒業生です。

――守さんのご兄弟も息子さんのご兄弟も関東学院卒業生なのですね。特に、守さんと潤さんは、中学から大学まで同じ、しかも大学では学部も同じですね。

守　西川浩さんが関東学院で学ばれ、娘さん二人を同じ学校に進学させましたね。僕も分かるような気がします。だんだん歳をとると、子供が成長する過程で、自分の卒業した学校に、できれば大学も同じところで学んでほしいと思うようになるものです。いい学校でしたから。

潤　父が教わった先生、比留間元昭先生と前泊義徳先生から僕も学びました。

由紀子　比留間先生は、わたしたちを最初に教えてくださった先生なんですよ。

守　僕の中学校時代に教育実習生で来られました。確か植村和生先生と田中暉彦先生もいらしていました。

ひろ子　そういえば比留間先生は、私が高校の時、教育実習で来られましたね。

潤　僕のときは、比留間先生は教頭でした。高校2・3年とクラス担任だった長谷川藤子先生のことは良く覚えています。体育の先生で、数年前にクラス会に

三世代が関東学院に学ぶ

- 西川 浩（中学部&高商部）
  - （妻）
  - （長女）西川ひろ子（小・中・高・短大）
    - （孫）根建ひろみ（西川）（小・中・高）
      - （曾孫）
  - （次女）池上由紀子（西川）（小・中・高・短大・大学）
    - （由紀子の夫）
    - （孫）早坂ゆか（池上）（小）
- （潤の父）根建 守（中・高・大）
  - （ひろみの夫）根建 潤（小・中・高・大）

「心に生きつづけている言葉」

私の頭には、かつて中学部5年の「公民」の授業の時、「諸君の子供が大きくなったら関東学院によこしなさい。喜んで入れてあげるよ」の言葉が忘れられず、娘、孫と三代お世話になりました。（中略）私の心には、「人になれ、奉仕せよ」がしっかりとそしてはっきりと刻まれ、今でも生きつづけています。坂田院長のこの言葉は、関東学院の建学のシンボルとして永遠に受け継がれてゆくでしょう。

（西川浩著「あらためて坂田院長を偲ぶ」からの抜粋引用）

呼んだら来てくださいました。クラス会と言えば、僕たちの結婚式のとき、二次会もそうですが、まるで関東学院同窓会のようでしたよ。

由紀子　この間開いた、わたし達のクラス会にもいらしていただきました。二代にわたって先生の話をするというのもいいですね。

ひろ子　本当にそうですね。

守　比留間先生とか長谷川先生は、僕にとっては、先生と言うよりは、失礼だけど仲間という感じですね。先生方が生徒の面倒をよくみて下さったと感謝しています。僕が大学進学するときも先生方が相談にのってくださり、親身になってアドバイスをしてくださいました。そのような暖かい対応が、生徒にも影響を与えていたのだと思います。今回取材していただけると言うことで真っ先に頭に浮かんだのは、「人になれ　奉仕せよ」でした。この校訓は強烈な印象として僕の中に残っています。関東学院イコール「人になれ　奉仕せよ」というイメージがあります。

　そうそう、もう一つ驚いたことがありました。近年の関東学院大学のラグビー部の強さは、我々卒業生にとってたいへん誇れるものであり、毎年の大学選手権の決勝を楽しみにしています。そんな中、息子達が結婚した年の決勝戦、宿敵早稲田大学を0点に抑え、あと5分でノーサイドというとき、早稲田の12番がトライをしました。その12番が息子の嫁のひろみの従兄弟、つまりこの由紀子さんの息子の池上真介君だったからです。

ひろ子　父・浩も関東学院を応援しようか、早稲田を応援しようか迷うなあ、もちろん真介には活躍してほしいけれど…、複雑な気分だなあと、興奮してテレビの前で応援していました。

――真介さんはもう卒業されたそうなので今後はノーサイドでお願いいたします。（笑い）

由紀子　息子は社会人になっても「トップリーグ」のリコーで仕事と両立させながらラグビー選手を続けています。これも何かのご縁なのでしょうが、息子にとって学生時代は宿敵だった関東学院ラグビー部ですが、監督の春口廣先生のご長男、翼君とは今はチームメートになっています。

――池上さんの関東学院との関わりと思い出を語ってください。

由紀子　小学校のときから関東学院に通い、「人になれ　奉仕せよ」ということを坂田祐先生から礼拝を通していつも語られていた気がします。「人になれ」とは一体どんなことだろうと、子供心に思いました。幼い私が選んだ学校ではなく、父が関東学院を出て、この学校に自分の子供たちを通わせたいと強く思ったからですので、何の疑いもなく、楽しく通っていました。中学校、高等学校そして女子短期大学英文科に進学し、シェイクスピア英語劇研究会に入り、柳生直行先生のもとで鍛えられました。さらに4年制大学英米文学科3年次に編入し、シェイクスピア英語劇と浅田寛厚先生のゼミで演劇を学びました。在学時の思い出はシェイクスピアと柳生先生と浅田先生のゼミと仲間達につきます。

――ご長女のゆか（早坂ゆか）さんも関東学院で学ばれたのですか。

由紀子　三春台の小学校に入学後、2年間学びましたが、父親の仕事の都合で遠隔地へ引っ越すために転校しました。それでも入学式には、柳生学院長のお話を聞くことができました。たった2年間でしたが、今でもゆかは、讃美歌を口ずさんでいます。

――お父様、由紀子さん、ゆかさんと三世代が関東学院で学ばれた理由は。

由紀子　「人になれ　奉仕せよ」につきると思います。戦後、人間を育てる指針が揺らいでしまった時、人間を人間として、心を育てる教育の場として、父が選び、私たち姉妹を通わせたのだと思います。父は、戦争でたくさんの友をなくし、悲惨な場面に遭遇し、二度と戦争をしてはいけない、何よりも平和で安心できる世の中をつくらなければ…それには心を育てる教育と、愛に溢れる家庭であると考えたのではないでしょうか。

今後、関東学院に望むことは「人になれ　奉仕せよ」の建学の精神を社会生活のなかに生かしていけるよう、またリードしていかれる人材をぜひ育んでいってほしいと思います。

――学生・生徒・児童たちへのアドバイスをお願いいたします。

守　「感謝　努力　和」私の好きな言葉です。若い人達も一度自分なりに考えてみて下さい。

ひろ子　毎日を大切に一生懸命いろいろなことを体験して下さい。大人になる前の準備期間ですから。

由紀子　目標を持ちましょう。自由でいられるのも、自分を見つめることができるのも、今、このときしかありません。

潤　今思うと学生生活はとても貴重な時間だったと思います。皆さんも充実した学生生活を送って下さい。

ひろみ　自由な時間と友達を大切にしてほしいと思います。

編集後記

「三世代が関東学院で学ぶ」をテーマに取材しました。関東学院の建学の精神を端的に言い表した校訓「人になれ　奉仕せよ」が、坂田祐先生を初め多くの先生方の言動によって、学院で学ぶ学生・生徒・児童のこころに残り、その後の卒業生の生き方にいかに影響を与えているかということを知りました。潤さんとひろみさんの長女のみのりちゃんが、まだ幼いので、ご自宅でインタビューさせていただきました。三世代が学院で学ばれ、次の世代も学院で学んでいただければ、関東学院の輪が大きく拡がり、伝統の重みとなります。改めて建学の精神の継承が大切であることを痛感しました。

（インタビュー・写真◎広報課長・瀬沼達也）

My family gathering is like a school reunion

Mr. Hiroshi Nishikawa was a graduate of Kanto Gakuin Junior and Senior High School in 1941.
Ms. Hiroko Nishikawa is a graduate of Kanto Gakuin Women's Junior College in 1970.
Ms. Yukiko Nishikawa was a graduate of Kanto Gakuin University in 1976.
Ms. Hiromi Nedate was the graduate of Kanto Gakuin Junior and Senior High School in 1997.
Mr. Jun Nedate was the graduate of Kanto Gakuin University in 2001.
Mr. Mamoru Nedate was the graduate of Kanto Gakuin University in 1974.

Mr. Hiroshi Nishikawa is a graduate of Kanto Gakuin Junior and Senior High School. In 1910 his father opened the Nishikawa hat shop in Tokyo, later moved to Yokohama, and he inherited the shop. The hat shop became very popular and many customers including celebrities came from all over Japan to buy hats. Unfortunately, this shop closed soon after Mr. Nishikawa passed away in 2004.

Mr. Nishikawa had two daughters, Hiroko and Yukiko. Both were graduates of Kanto Gakuin. They entered Kanto Gakuin Elementary School according to their father's wishes. They both still remember the school motto, "Be a man, serve the world" by Dr. Tasuku Sakata.

Ms. Hiromi Nedate, daughter of Hiroko and the granddaughter of Hiroshi Nishikawa, also studied at Kanto Gakuin from her elementary school days. She was a member of the marching band and participated in the 12th World Music Contest. Though the practice was hard, the band won the first prize in the contest.

Ms. Hiromi Nedate met her husband, Jun Nedate when he sat next to her in her class in the 6th grade. Mr. Jun Nedate transferred to Kanto Gakuin, and was accepted smoothly by his classmates. Soon after he came to Kanto Gakuin, his grandfather suddenly passed. At that time, his father, Mamoru Nedate, remembered that Principal Tetsutaro Mizuno, some teachers and parents from the PTA attended the funeral. Mr. Mamoru Nedate and his brother were also graduates of Kanto Gakuin.

Mr. Motoaki Hiruma, Mamoru Nedate's teacher, was also the teacher of Jun, Hiroko and Ms. Yukiko Ikegami. Mamoru Nedate said that his teachers were more like friends to him, and they took good care of the students. For this interview, "Be a man, serve the world" was the first phrase that came to mind for him.

Ms. Yukiko Nishikawa said that the main reason why the three generations studied at Kanto Gakuin was they all had respect for the school motto, "Be a man, serve the world". She believed that her father wanted to provide his daughters a place where they could learn how to nourish their minds. That is why he chose Kanto Gakuin for them.

Lastly, Ms. Nishikawa said that she hopes Kanto Gakuin will continue teaching the spirit of "Be a man, serve the world", and educate students who have strong leadership skills based on the school motto.

西川　浩
1922年　横浜生まれ
1939年　関東学院中等部　卒業
1941年　高商部　卒業

西川ひろ子
1949年　横浜生まれ
関東学院小学校、
中学校高等学校で学び
1970年　女子短期大学家政科　卒業

池上由紀子
1953年　横浜生まれ
関東学院小学校、
中学校高等学校、
女子短期大学英文科で学び
大学文学部へ編入学
1976年　文学部英米文学科　卒業

根建ひろみ（西川ひろ子の娘）
1978年　横浜生まれ
関東学院小学校に学び
1997年　中学校高等学校　卒業

根建　潤（ひろみの夫）
1978年　横浜生まれ
関東学院小学校、
中学校高等学校で学び
2001年　大学経済学部経営学科　卒業

根建　守（潤の父）
1951年　横浜生まれ
関東学院中学校高等学校で学び
1974年　大学経済学部経済学科　卒業

関東学院各校同窓会の連絡先

◉大学同窓会　**燦葉会**（さんようかい）
〒236-8501　横浜市金沢区六浦東1-50-1
045-784-0310

◉女子短期大学同窓会　**香葉会**（こうようかい）
〒236-8503　横浜市金沢区六浦東1-50-1
045-787-0678

◉中学校高等学校同窓会　**橄欖会**（かんらんかい）
〒232-0002　横浜市南区三春台4番地
045-231-0134

◉六浦中学校高等学校同窓会　**六葉会**（ろくようかい）
〒236-8504　横浜市金沢区六浦東1-50-1
045-781-2525

◉小学校同窓会　**たんぽぽの会**
〒232-0002　横浜市南区三春台4番地
045-241-2634

◉六浦小学校同窓会　**しおん会**
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東1-50-1
045-701-8285

Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Projects

For Kanto Gakuin's 125th Foundation Anniversary Project, we will achieve our mission of Educational Enterprise based upon the foundation spirit under the slogan of "Toward a new step of Kanto Gakuin".

Main projects under consideration are as follows:compilation of Kanto Gakuin historical material for 125th commemorative publication, establishment of an institute for Kanto Gakuin historical material, enrichment of the educational promotion fund, establishment of a scholarship fund, contribution to society, promotion of international exchange projects, educational reformation at each school, and modernization of campus and classroom equipment. In order to achieve these projects, two committees were established under the committee of the 125th Foundation Anniversary Project at the beginning of the 2006 academic year.

関東学院創立125周年記念事業の基本コンセプト
≪関東学院125年の新たな一歩に向けて≫

学院は総数約１万６千名の園児・児童・生徒・学生を擁する総合学園を構成しています。「学院はキリスト教の精神をもって建学の精神とし、『人になれ　奉仕せよ』を校訓に、人たるの人格をみがき、愛の精神をもって奉仕する、創造性豊かな人間を育成する」ことを使命（ミッション）としています（関東学院職制、坂田祐入学式式辞より）。125 周年記念事業は学院のこの教育使命を継承する事業であり、基本コンセプト≪関東学院 125 年の新たな一歩に向けて≫を掲げています。学院が有する固有の教育資源を活かして、【共生：奉仕教育・国際交流・総合教育力の向上】、【社会：生涯教育・教育相談・地域社会貢献事業】、【文化：文化活動の推進】、【健康：安全安心・健康・スポーツ】、【環境:環境にやさしいキャンパス創り】、【継承：建学の精神・一貫教育・校友同窓会組織との連携強化】などの事業を展開し、学院のブランド力を高めていきます。

■関東学院創立125周年記念事業の実施組織

理事会

関東学院創立125周年記念事業委員会

委員長:理事長　委員:理事全員　事務局:総務部総務課

募金実行委員会

募金発起人会の組織と募金事業の展開
- 委員長:財務担当常務理事
- 事務局:関東学院創立125周年記念事業募金局

学院史編纂委員会

学院史の編纂と学院資料展示室の開設
- 委員長:学院長
- 推進担当部署:総務部・総務課・学院史資料室

125周年記念事業推進委員会

記念事業の調整・プロジェクトの計画・推進
- 委員長:理事長
- 委　員:常任理事会構成員
- 事務局:企画調査課
- ・教育振興基金の充実
- ・学院奨学金基金の創設
- ・広報活動
- ・社会貢献・国際交流事業
- ・各校の教育改革
- ・キャンパス整備事業

→ **125周年記念事業・募金事業プロジェクト（本部）**

関東学院創立125周年記念事業「キックオフ」集会お知らせ

日 時　2007年10月6日(土)　11:00～12:30
会 場　大学SCCベネットホール
内 容　挨拶、説明、取組み発表等
　　中学校高等学校ハンドベル演奏
　　関東学院聖歌隊　合唱

関東学院創立125周年記念ロゴ・デザイン

2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行きます。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。

「キリスト教と文化研究所」近況報告

所長　松田和憲

Report on the Institute for The Study of Christianity and Culture

This is the 7th year since the Institute for the Study of Christianity and Culture began. In the beginning, we had three groups studying topics of culture, ethics, and practice. Each group has published their research findings in the "Shohou", and the 5th Shohou from the Institute was published in March, 2007.

From 2004, a historical study group which deals with research on Dr. Tasuku Sakata and on Baptist history was added as one of the research groups. Dr. Sakata's personality and philosophy are studied, and these two research groups are playing an important role in studying Kanto Gakuin's spirit and its identity.

In 2005, a new project, "International Studies and Volunteerism" in the group of practical education study was established. This project considers mutual understanding, volunteerism and cooperation between different countries, nations, and individuals. Specifically, in August 2006. the project members visited and researched the Karen and Aka tribes living in Northern Thailand. This effort developed into and became a "Service Learning" study, and on December 31, 2006, the "Kanto Gakuin Service Learning Center" was established in the Chipare village in Northern Thailand. This same project is now working on a remote lecture system that will enable KGU to share resources with other universities overseas.

On April 2007, Dr. Kazunori Matsuda became the director of the Institute for the Study of Christianity and Culture. This institute now consists of 14 staff members, 7 researchers, and 23 guest researchers. A book, entitled "Historical Dedication of the Baptists" was published this year. This book includes several new themes which have not been researched before, so this book is worth reading for those interested in the field of Baptist study.

On June 2007, the Dr. Tasuku Sakata study group held an open lecture and received a favorable review. The lecturer, Yoshiko Araida, a historical novelist, talked about the life of Dr. Sakata's parents and grandfather, and Dr. Sakata in his youth. Also, this group has investigated Ashio twice, and found Dr. Sakata's monument which shows remnants of his residence there.

2001年10月発足した大学「キリスト教と文化研究所」も今年で7年目を迎えた。発足時には、キリスト教と大学が担う主要な学問領域（科学、文化、倫理）との対話を目的として三つの部門（文化研究部門、倫理研究部門、実践教育部門）を設置し、「キリスト教と日本の精神風土」、「いのちを考える」、「奉仕教育における課題と実践」のプロジェクトチームを立ち上げ、それぞれが独自に研究活動を展開し、その成果を踏まえた文化研究所所報『キリスト教と文化　第1号』（2003年3月）を発刊して以来、毎年いくつかの研究論文と共に、それぞれのプロジェクトチームの研究成果を掲載し、今年3月には「所報」第5号を世に送り出すことができた。

新井田良子氏講演会

加えて2004年度からは、本研究所の前身である「プロテスタント史研究所」の伝統を継承する歴史研究部門を設け、合わせて4部門を構成するに至った訳である。この研究部門は二つの研究プロジェクトを軸としているが、その一つは「坂田（資料）研究」グループで、建学の精神「人になれ　奉仕せよ」を提唱した初代院長・坂田祐の人となり及びその思想に関する研究、中でも「坂田日記」の解読を旨とする研究グループであり、もう一つは「バプテスト研究」チームで、これは本学院創設の源流となるバプテストに関する歴史神学的研究を眼目とするグループであり、これら二つのプロジェクトは、本学院の建学の精神、並びにアイデンティティの具現化、その今日的意味を問うグループであり、双方とも重要な研究分野を担っている。

さらに2005年度には、グローバル化の進む国際社会における重要課題の一つである相互理解と共生の理念を旨として、異質な歴史的・文化的背景を有する国家間、民族間、異質な両者における相互理解と共生の可能性を模索する「国際理解とボランティア」研究プロジェクトを実践教育研究部門として発足させることができた。その具体的な取り組みとして同年8月、タイ国北部の山岳少数民族（カレン族、アカ族）の許に赴き、それらの人々の精神風土、宗教的環境、社会的問題と実情等に関する調査研究を行い、その成果については、所報に掲載された研究論文「タイ北部山岳少数民族の自発的発展に関する一考察－アカ族ホイコム村の事例」（菊地昌弥他著『キリスト教と文化』第5号、p.69～p.79.）からも見て取れる。これら一連の取り組みは、本学院のモットーである「人になれ　奉仕せよ」の精神に基づく「サービスラーニングの理論と実践」研究に発展し、それが1994年から10年以上に亘って継続されてきた、タイ北部山岳地帯における奉仕教育活動の結実として2006年12月31日、チパレでの「関東学院サービスラーニングセンター」献堂式実現に繋がったのである。これは6年間の本研究所の研究実績から生れてきた証左であり、共にその完成を喜び、今後の本研究所の更なる発展の励みとしたい事柄である。また同研究プロジェクトは、国際理解をテーマに、海外の各大学のもつ知的財産をインターネットによって共有する「遠隔講義システム」に関する実験的研究を目指して鋭意検討中である。

さて本研究所は、2007年度4月から所長が初代所長の森島牧人学院長から松田所長に代わり、学内の専任教師で構成する所員14名、非常勤講師7名からなる研究員、それに学外から36名の客員研究員を加え、総勢57名でスタートした。まず特筆すべきは、本研究所の果実として、研究所叢書第一号『バプテストの歴史的貢献』（バプテスト研究プロジェクト編、関東学院大学出版会、2007年、2,520円）が出版されたことである。これは5人のバプテスト研究者による共著で、英国バプテストの日本伝道、日本におけるバプテスト派婦人宣教活動、同派の女性教育、また日本基督教団残留バプテスト派研究など、未着手の歴史を解明する画期的研究を記した好著であり、「バプテスト研究」分野においては一級の必読書であり、広く愛読をお願いしたい（詳しくは「キリスト教と文化研究所」にお問い合わせを！）。

今年度の活動は既に始まっているが、その中で注目すべきことを2、3挙げるならば、その第一点目は、今年度前半、各プロジェクトが率先して公開シンポジウム、講演会などを開催していることが目に付いたが、中でも「坂田祐」研究プロジェクトが6月に開催した公開講演会はたいへん好評を博したということである。講演者は歴史作家・新井田良子氏で、演題は「校訓『人になれ　奉仕せよ』の先がけとして－坂田祐の祖父日向内記と父中村富造の生涯－」であり、第一次資料に基づき、坂田の祖父と両親の生涯を中心に、また坂田祐の青少年時代についてお話を頂き有益な時となった。また、坂田研究グループとして「足尾調査」を2度行ったことも忘れてはならない。その結果、日光市にある碑石「関東学院創設者　坂田祐　在住の地」を発見したのである（詳しくは、本研究所「ニュースレター　No.16」、2007年7月30日発行を参照されたい）。今後も本研究所への変わらざるご支援とご協力をお願いしたい。

KGU 研究活動の最前線

環境教育ISO14001の取り組み

人間環境学部の環境活動について

関東学院大学人間環境学部では、2002年度の学部新設以来、環境をテーマに様々な教育研究活動を続けて参りました。2006年度より、マニュアル類の整備を含めた環境マネジメントシステムを学部内に構築し、運用を行ってきましたが、すでにホームページ等でお知らせしていますように、2007年2月14日、ISO14001：2004（通称環境ISO）の適合認証を取得しました。ISO14001には、環境活動を組織的かつ継続的に行っていくためのルール（EMS：環境マネジメントシステム）に関する規格が定められており、人間環境学部が構築し遵守しているルールが、この国際規格に適合していることが認められたわけです。

人間環境学部では、大学という教育研究の場という特性を生かした環境活動を行っていこうと考えています。この場を借りて、関東学院大学人間環境学部としての環境活動への取り組みについてご紹介します。

まず、ISO14001のルールに則り、人間環境学部長の決定により人間環境学部としての環境方針を定めました。ここでは毎年の活動を行う上での基本方針を明確にしています。その最初の項目は以下のとおりです。

「関東学院大学人間環境学部は、地球環境・地域環境の保全と維持向上に係わる教育、研究活動を充実し、環境保全に貢献しうる人材の育成、研究の促進に努め、社会に貢献します。」

一般に、企業においては、製品を大量生産する過程でいかに環境に負荷をあたえないようにするかが環境活動の中心となります。しかし大学では、そもそも環境負荷はさほど大きくありません。そこで我々は、直接的に負荷を減らすのではなく、大学の使命である教育を通じ、環境活動に携わることのできる人材を輩出することで、将来的に大きな環境貢献を果たすことを環境活動の柱にすえたわけです。

そのため、広く環境についておよび環境ISOについて学ぶことができる教育環境を作りました。同時に、内部環境監査員という実社会で環境活動に関わる際に役立つと思われる資格の取得を推進しています。内部環境監査員の養成についてはISO14001の取得前から実施されており、すでに208名の合格者を出しています。

その他、教職員が通常の業務の中で環境に配慮することに加えて、学生とともに環境の保全、環境に対する意識の向上に向けた活動を計画しています。

・環境ポスターコンペティション

学生を対象に、環境関連ポスターのコンテストを行います。

・小論文コンテスト

学生を対象に、環境をテーマにした小論文のコンテストを行います。

・壁面緑化の試み

学生が中心となり、施設の一部で壁面にゴーヤを栽培し、日射を和らげる実験を行います。

・卒論、ゼミ等での研究

研究テーマの一つとして環境問題を取り上げ、学生とともに研究を行います。

こうした活動の成果については、今後、ホームページ等を使って随時公表していきます。

教育分野以外でも、設備等の省エネ化による環境配慮にも今まで以上に力をいれていきます。また、ごみの分別・リサイクルや用紙の使用量の削減、空調温度の設定など、日々の生活における細かな配慮の積み重ねも大事な活動と捉えており、エネルギー使用量について、ガスや電気の使用量を年間3％削減するなどの数値目標を掲げています。

勿論、研究分野でも、今後積極的に環境問題を取り上げていきたいと考えています。

教育研究に関わる環境活動は、設備の改善や業務の改善に比べれば結果がすぐに数値として表れません。一つ一つの活動もそれほど大規模ではありません。しかし、大学という教育研究組織に相応しい活動を、学生とともに身近なところから行っていくことが、関東学院大学人間環境学部としてもっとも環境問題に貢献できる道になると考えています。

ささやかながら地道な活動を続けることによって、単に人間環境学部キャンパスだけの環境改善だけではなく、広く社会全体に環境活動の場が広がることを願って、活動を続けていきます。

今後とも人間環境学部の環境活動へのご理解、ご協力をお願いします。

The latest efforts toward environment preservation by the College of Human and Environmental Studies Campus

Since the College of Human and Environmental Studies Campus received the certificate of attestation of ISO 14001 in February, 2007, the College has contributed to environmental preservation by means of training and studies as the main purpose of the College. The College has established an educational system for students so that they can study the environment widely and deeply, and consequently, 208 students have passed the ISO 14001 examination.

Moreover, faculty and students have cooperated together and made plans for stimulating activities of environmental preservation. Some of the activities include:

1)Environmental poster competition
2)Small paper competition
3)Attempt to plant using the campus wall
4)Studies for thesis and seminars on the environment

The College has made many concerted efforts toward enacting energy saving measures not only in the educational arena but in other areas throughout the campus as well. Collection of garbage by type, recycling papers, and temperature setting measures for saving energy are specific efforts which the College has already begun.

Although environmental activities related to education and research take some time to see results, the College considers them as appropriate tasks and is striving to continue these activities both for betterment of the campus and our entire society as well.

ラグビー部の春口 廣監督が出演!!
NHK教育テレビ「知るを楽しむ 人生の歩き方」

NHK教育テレビ「知るを楽しむ 人生の歩き方」の９月放送にラグビー部の春口廣監督が出演します。

この番組は、各界の最前線で活躍されている方々に、様々な成功や挫折、人生を変えた転機、そこから学んだ教訓や知恵などをじっくり語っていただくインタビュー番組です。

テキスト（定価683円）は、お近くの書店またはNHKサービスセンターでお買い求めいただけます。

ラグビーワールドカップ2007フランス大会の日本代表に関東学院大学の卒業生４名が選ばれる

日本代表ラグビーワールドカップ2007大会登録メンバー30名のうち、箕内拓郎代表キャプテンをはじめ本大学卒業生の全4名が選ばれました。4年に1度開催される第6回W杯が、9月にフランスで行われます。この4名の方々が同大会に出場されます。大活躍されますよう皆さんで応援いたしましょう。

なお、選出されていた山本貢さん（三洋電機ワイルドナイツ）は、残念ながら負傷のため、出場されません。ご回復をお祈りいたします。

（9月3日現在）

Position	氏名	所属	年齢	身長	体重	キャップ
PR	山村 亮（Ryo YAMAMURA）	ヤマハ発動機ジュビロ	26	185	114	35
FL/No.8（主将）	箕内拓郎（Takuro MIUCHI）	NECグリーンロケッツ	31	188	107	37
WTB	北川智規（Tomoki KITAGAWA）	三洋電機ワイルドナイツ	24	175	80	2
FB	有賀 剛（Go ARUGA）	サントリーサンゴリアス	23	175	85	8

日本テレビ＆J SPORTS放送予定

※放送日時は事前に必ずご確認ください

放送予定年月日	対戦国	日本テレビ	J SPORTS
9月8日（土）	**日本 vs. オーストラリア**	24:05〜26:05	22:15〜
9月12日（水）	**日本 vs. フィジー**	21:56〜26:56	24:30〜
9月20日（木）	**日本 vs. ウエールズ**	27:55〜29:50	27:30〜
9月25日（火）	**日本 vs. カナダ**	24:56〜26:56	24:30〜

お見逃しなく!

◉放送局
NHK教育テレビ

◉番組名
「知るを楽しむ 人生の歩き方」
春口 廣 〜「雑草」がつかんだ日本一 〜

◉放送日
第1回　たった8人からのスタート
9月5日（水）22:25〜22:50
第2回　身長156センチのラグビー選手
9月12日（水）22:25〜22:50
第3回　闘志なき者は去れ
9月19日（水）22:25〜22:50
第4回　宿命の対決早稲田・清宮監督
9月26日（水）22:25〜22:50

◉再放送
第1回　9月12日（水）05:05〜05:30
第2回　9月19日（水）05:05〜05:30
第3回　9月26日（水）05:05〜05:30
第4回　10月3日（水）05:05〜05:30

硬式野球部、神奈川大学野球春季リーグ戦で優勝
（春秋あわせて5季連続51度目の優勝）

第56回全日本大学野球選手権大会出場

神奈川大学野球春季リーグの最終戦は、5月26日、関東学院大学金沢文庫キャンパス野球場で関東学院大−神奈川大の試合を行い、本学が4−2で下し、5季連続51度目の優勝を決めました。同リーグにおける、本学の表彰選手は次のとおりです。

【最優秀選手賞】　内田 徹
【ベストナイン】　外野手・松本昭彦

この優勝により、本学硬式野球部は6月12日開幕の第56回全日本大学選手権大会に出場を果たしました。

全日本大会の第1回戦では、金沢学院大学と対決。4回に同大に1点を先制されたが、300名を超える応援学生の声援を受け、8回と9回に1点ずつを挙げての逆転勝を飾りました。

2回戦では、創価大学と対決。2回と9回に二死満塁という好機がありながら、1本が出ずに1−3で惜敗してしまいました。しかし、先発メンバーに4年生3名だけという若いチームにとって今回の負けが今後の良い経験になることでしょう。

◉第56回全日本大学選手権大会
6月12日　本学　2−1　金沢学院大学
6月14日　本学　1−3　創価大学

関東学院 各校 NEWS

大学

建築学科、高橋健彦教授が（社）大韓電気協会から感謝牌授与される

四月十一日、工学部建築学科の高橋健彦教授は、韓国江原道で開催された（社）大韓電気協会年次全国大会において、韓国への接地・電気設備分野の技術指導の貢献により同協会から感謝牌が授与されました。

清水忠直名誉教授、春の叙勲受章

名誉教授 清水忠直先生は、多年の教育研究に従事し国家または公共に対する功績が顕著であるとして、四月二九日付、瑞宝中綬章を受章されました。先生は、五月十日に国立劇場大劇場で行われた伝達式、皇居において行われた拝謁に出席されました。

建築学科 湯澤正信教授・大塚雅之教授、第5回環境・設備デザイン賞建築・設備統合デザイン部門で入賞

工学部建築学科の湯澤正信教授と大塚雅之教授が、本学の環境共生技術フロンティアセンターの設計で、社団法人建築設備綜合協会主催の第五回環境・設備デザイン賞建築・設備統合デザイン部門で入賞しました。表彰式は五月二三日、建築会館ホールで行われました。

物質生命科学科 山下嗣人教授と工業化学専攻博士後期課程高橋勝氏が日本材料科学会の論文賞を受賞

日本材料科学会の会誌「材料の科学と工学」に掲載された工学部物質生命科学科 山下嗣人教授と大学院工学研究科工業化学専攻博士後期課程高橋勝氏の論文「Adhesion Strength for Copper(Cu) Clad Laminate of Cu Foil/γ-aminopropyltrimethoxysilane (γ-APS) / Epoxy Resin」が日本材料科学会の論文賞を受賞し、五月二五日の総会で表彰されました。

情報ネット・メディア工学科 金田徹教授が、日本設計工学会から武藤栄次賞優秀設計賞を授賞

工学部情報ネット・メディア工学科の金田徹教授は、東京理科大学理工学部・野口昭治氏および日本精工（株）・田島俊二氏らと共同開発した「多多自由度揺動軸受」に対して、（社）日本設計工学会から武藤栄次賞優秀設計賞（第一回）を授与されました。五月二六日、KGU関内メディアセンターで開催された、日本設計工学会通常総会にて表彰されました。

バスケットボール部史上初の三位に輝く 第五六回関東大学バスケットボール選手権大会

本学バスケットボール部は、五六回関東大学バスケットボール選手権大会において、一・二・三回戦はシードされ、五月二八日四回戦から登場し、部史上初の三位に輝きました。（優勝 大東文化大学 準優勝 早稲田大学）法学部法律学科一年次のファイエ パプ ムール君が個人賞として優秀選手賞・得点王・リバウンド王を獲得しました。試合の詳細結果は下記の通りです。

4回戦	114対72	千葉商科大学
5回戦	70対66	青山学院大学
6回戦	91対65	明治大学
準々決勝	108対76	中央大学
準決勝	74対83	早稲田大学
3位決定戦	80対75	日本大学

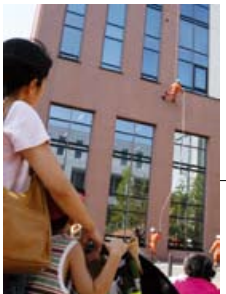
空手道部「日本空手協会」春季リーグ戦一部リーグ第三位

六月十七日（日）に東京で行われた「日本空手協会」の春季リーグ戦において、本学空手道部は一部リーグ第三位となりました。（一位 駒澤大学 二位 大正大学）同日行われた個人戦では、文学部英語英米文学科一年次の小林樹生君（武蔵工大第二高出）と工学部物質生命科学科一年次の島内智紀君（宮崎第一高出）が、ベスト8に入りました。

「PLAY AND LEARN TOGETHER …遊びながら学ぼう！」

二〇〇〇年より継続開催している「関東学院大学ふれあい祭り」は今年八回目を迎えました

子供たちの理数科離れに歯止めをかけ、「ものづくり」の楽しさ、「学ぶこと」の面白さを実感してもらおうとはじまった「KGUふれあい祭り」。未来の選択肢を広げてもらうとともに、普段お世話になっている近隣の方々に、大学が持っている宝物（施設・設備・知識・人）を提供し、本学への理解を深めていただくことを目的としています。年を追うごとに規模が大きくなり、今年は学生スタッフ六百名、教職員含め総勢八百名のスタッフで、お客様をお迎えしました。



今年のテーマは近隣の皆様と防災

金沢区に合宿所のある本学運動部と、金沢消防署は、消防応援協力に関する覚書を締結しています。災害時、硬式野球部、ラグビー部、陸上競技部の部員達は消防隊員と一丸となって消火活動の補助・応急救護活動等を行うことになっています。

今回は、その金沢消防署の全面協力を頂き、はしご車・起震車・AED・消防士体験などの企画を行ないました。キャンパスで一番高いフォーサイト21の屋上から隊員が降下する訓練もあり、来場者は息を飲んで見守っていました。

防災に対してユニークな視点からアプローチしたのは人間環境学部健康栄養学科の「作って、食べて、遊ぼう!!」学生、教員が知恵を競って、非常食をおいしくアレンジしています。

近隣といえば、忘れてはならないのが毎年恒例！追浜商盛会からの「おっぱまワインの試飲と販売」。さらに今年金沢八景共栄会からは、「瀬戸の秋月あんどん手作り教室」がやってきました。リサイクルにもなる牛乳パックでのあんどん作りに皆夢中になっていました。

学部企画もさらに充実し、文学部では「トリビアアドベンチャー ～世界一周の旅～」や「アメリカ西部 ～カウボーイを探せ～」などの新企画も誕生。

工学部企画、「てんぷら油で走るレーシングカート（展示）」「ロボットで格闘競技会」「模型自動車を操縦しよう」など、最新の技術に子供たちは目を輝かせていました。

人間環境学部の「親子わくわく広場」はお母さん、子供達に大人気。「巨大ダンボール迷路」あり、「お芝居」ありと、歓声と笑顔が絶えない企画でした。

屋外ではアメリカンフットボール部員の発案で子供達が腰につけた旗（フラッグ）を取る「フラッグフットボール」が企画され、小さな子供達と屈強なアメフト部員の交流がほほえましく感じられました。また、フリーマーケットも七五店舗出店され、道行く人との交流を深めていました。

「PLAY AND LEARN TOGETHER…遊びながら学ぼう!」を合言葉に今年も五千名の方の来場があった「ふれあい祭り2007」。

我々学生教職員にとっても、子供たち、近隣の皆様と、話し、遊び、学びあう機会が持てることはとても幸せなことです。ご来場頂いた皆様、ご協力・ご協賛いただいた皆様、いつも本学を支えてくださりありがとうございます。

これからも地域の皆様に愛される大学作りを目指していきます。

The 8th Fureai Festival at Kanto Gakuin University was held and more than 5,000 people attended on that day. The theme of this year was “to play and learn together”. About 800 students and staff members worked together to provide the guests with an opportunity to learn while having fun.

The aim of this year’s Fureai Festival was to learn about disaster prevention. With the help of the Kanazawa fire station, there were chances to experience climbing a scaling ladder, using an AED, and driving a vibromotive car. The neighboring area storekeepers’ group cooperated with Kanto Gakuin and brought their products and held a cooking workshop. Moreover, several Colleges of Kanto Gakuin held their own events to allow children a chance to interact with college students while learning and experiencing new things. Outside, children could play with football team players. There was a flea market as well, and many people could communicate with each other both inside the classrooms and outside on the campus.

The Fureai Festival is quite an enjoyable and wonderful experience for Kanto Gakuin students and staff members to talk, play, and learn together with children and adults in the Kanazawa area. It is hoped that this activity will be continued in the future so that Kanto Gakuin University will be known and loved by its neighbors.

Kanto Gakuin University News

From April, 2008, the College of Law will combine the Department of Law with the Department of Legal and Public Policy Initiatives and introduce a five course system within the Department of Law. Through these five courses, students can deepen their knowledge and understanding regarding the law, and learn justice, fairness, and ethics.

Kanto Gakuin University’s Department of Human Development is applying for elementary school teacher training course in April, 2008.
With this course, students can acquire knowledge about child development from infants to elementary aged children.

Dr. Tadanao Shimizu, Emeritus professor, was awarded The Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Neck Ribbon on April 29, 2007 by the Emperor.

Dr. Masanobu Yuzawa and Dr. Masayuki Otsuka, Professors in the Department of Architecture won a prize in the 5th Environmental and Equipment Design Competition of the Association of Building Engineering and Equipment on May 23, 2007.

Dr. Tsugito Yamashita, Professor in the College of Engineering, and Mr. Masaru Takahashi, an Industrial-Chemical Engineering graduate student in KGU’s Graduate School were awarded the Paper Award at the Materials Science Society of Japan on May 25, 2007.

Dr. Toru Kanada, Professor in the Department of Network and Multi-Media Engineering, was awarded the 1st Eiji Muto Award at the Japan Society for Design Engineering at KGU Media Center on May 26, 2007

Kanto Gakuin University’s Basketball club took third place for the first time in the 56th Kanto University Basketball Championship Tournament.

Kanto Gakuin University’s Karate club took third place in the spring league held by the Japan Karate Association on June 17, 2007.

2008年度から法学部が変わります。

選択できる5つのコース制を導入
将来を視野に入れた専門知識を修得します

法学部は2008年4月から、従来の「法律学科」と「法政策学科」の実績を継承し、学科を統合した「法学科」となります。現代社会における法律学の意義は多様化しています。法学部はこうした社会の変化に対応して、2年次から「司法コース」「行政・政策コース」「パブリックセキュリティコース」「法とビジネスコース」「政策とビジネスコース」の5つのコースを設置。法に対する知識と理解を深めるとともに、各々の学生の興味や将来の進路に合わせて専門的な法知識の修得が可能となります。

【法学科】
多種多様な法知識と教養を学び
問題に対して公正に考える能力を育成

「法律学科」と「法政策学科」を統合して生まれる「法学科」では、実社会で要求される多種多様な法知識と豊かな教養を体系的に学ぶため、授業科目の幅を拡大します。また、2年次からは将来の進路に合わせた専門的な法知識を修得するとともに、倫理観、公正さ、正義、自由などの視点から思考する能力を育成します。

人間発達学科に新たに小学校教員養成課程増設

小学校教諭一種教員養成課程の2008年4月付設置を申請中です。現在、幼稚園教諭一種および保育士養成課程を有していますが、2008年4月付で小学校教員養成課程が認可されれば、乳幼児から児童まで、子どもの発達全般について専門的に学べるようになります。

中学校 高等学校

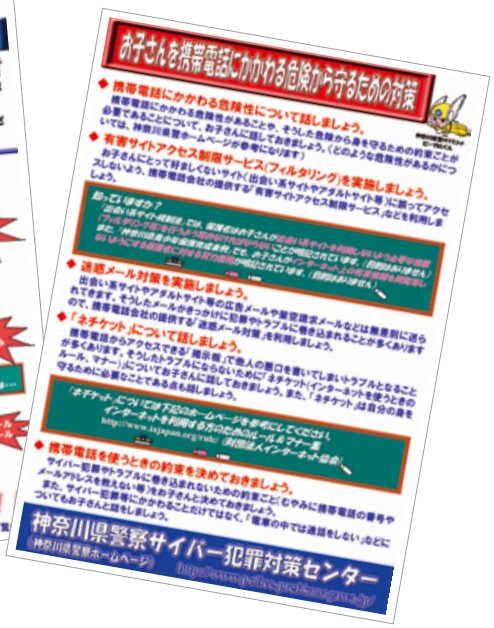
サイバー犯罪に関する講演会実施 ―生徒指導委員会―

生徒指導委員長
中村 新

今年度関東学院中高では、神奈川県の防犯対策推進班くらし安全委員の方にお願いをして、中高全学年の生徒および各学年の保護者を対象にした「携帯電話を利用したサイバー犯罪に関する講演会」を実施しました。それは、最近、携帯電話やコンピューターを使って利用できるインターネット掲示板（「○○校ジモトーク」「○○話」「学校裏サイト」）などに個人の悪口や誹謗・中傷が書かれていることや、中高生をターゲットにしたサイト上に個人情報が流出して様々なトラブルや犯罪が多発している社会情勢に対して、学校として具体的に対応していかなければならないと考えたからです。今まで学校は、それらの問題は学校とはかけ離れた世界の出来事ととらえていました。しかし、実際には携帯電話が便利なツールとして利用されており、「軽い冗談のつもりで書き込んだ」「興味本位でアクセスした」「悪いこととは知らなかった」など、いわば遊びの感覚で、罪悪感の乏しいまま犯罪の加害者・被害者になってしまうケースが多く見られます。携帯電話の高い普及率を見れば、生徒の安全を守る意味で私たちも真剣にこの問題に取り組んでいかなければならない、決して「対岸の火事」ではないと考えました。

講演会は高校生全体、中学二・三年生、各学年の保護者の三つにその対象を分けて実施しました。この講演会を通じて感じたことは、同じ内容に対するとらえ方が大人と子供たちでは異なるという点です。子供たちは「普段身の回りにある内容について、いい面と悪い面がよく整理されて話されたのでよかった」と受け止めています。ところが、教職員・保護者はむしろ逆で「こんなにひどい状況にあるとはまったく知らなかった」という驚きで受け止められていることです。一言で言えばジェネレーションギャップがあるということになります。つまり、それだけ大人よりも子供たちが身近な問題として受け止めており、そのぶん、子供たちに対する影響力が大きいということになります。最近では警察・学校・保護者が相互に連絡をとりあって対処していくケースが多く見られますが、この問題の本質は現代社会の奥に潜んでいる「他者との関係を極力避けようとする自己中心的なものの見方」です。基本的には「心の豊かさを育てる教育」が問われているわけですが、改めて人間教育の重要性を再認識いたしました。

今後も、揺れ動く思春期のなかで人間不信に陥りやすい子供たちの心に、間違った価値判断を構築させない取り組みとして企画していきたいと考えています。



Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools

A lecture on cyber-crime with cellular phones was held for students and their parents. Since many students have begun to have their own cellular phones and can easily get connected to dangerous networks, it is an urgent topic to be discussed and dealt with. After the lecture, it seemed that students accepted and understood their circumstances well. On the contrary, teachers and parents became shocked when they knew their students' cyber-network possibilities. Recently, the police department, school, and parents have begun networking one another to better deal with cyber-crime problems. The essence of this problem is derived from a self-centered mindset in which one shuts oneself off from others. In order to protect students from cyber-crime and teach them a right sense of values, this kind of program should be held continually in the future.

六浦中学校 高等学校

高二学年担当
木本 喜將

高二研修旅行

高校二年生の研修旅行は、五月八日～十二日の四泊五日で実施されました。前半二日間は体験学習を中心に三コースに分かれ、後半三日間は学年全体で行動しました。

この研修旅行のために、高校一年生から切支丹について学んだり、各科の指導のもと平和の大切さを考えてきました。事前学習として、長崎・熊本について各自がテーマを決めて研究し準備を進めてきました。

快晴に恵まれた出発の朝は、全員が遅れず羽田空港に集合し、A・Bコースは長崎へ、Cコースは熊本へ向かいました。

Aコースの初日は、西彼杵にあるコルベ神父の記念館を訪れ、「聖母の騎士」の小崎神父より「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の掟である。友のために命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。（ヨハネ十五・十二）」について大変貴重なお話を聞きました。また、平戸では切支丹館や遠藤周作記念館などを訪れ、私たちの想像を超える幕府の残虐な迫害と、それにも屈せず信仰を持ち続けた切支丹の生き方を目の当たりに知ることができました。二日目は、平戸焼きの体験学習に挑戦し、とても素敵な透かし彫りの置物が出来上がりました。

Bコースは五島列島の福江島を訪ね、初日に島の自主見学を行いました。夜は天文台から土星の観察、自分の目で初めて見る生徒は歓声を上げていました。二日目には、体験学習の「イカするめ作り」「かまぼこ作り」「珊瑚加工」の班に分かれて、ベテランの職人から指導を受けました。緊張した手つき、真剣な眼差しで取り組んでいたところが印象的でした。その後、紺碧の東シナ海を背に毅然と聳え立つ白い大瀬崎灯台と五島の豊かな自然を満喫し、井持浦教会ルルドでは巡礼者の不思議な奇跡体験話を聞きました。最後に明治に建てられた堂崎天主堂を訪れ、キリスト教伝来史の一こまをリアルに学びました。

Cコースは、熊本空港から阿蘇に向かい、阿蘇ファームランドを見学した後、午後からは田植えの体験、引率教員も一緒に泥だらけになって取り組みました。その晩生徒たちは受け入れてくださる農家でホームステイ、翌朝には別れてしまう短い時間でしたが農家の生活を体験しました。二日目は島原に渡り、雲仙災害記念館を見学したり、雲仙地獄めぐりを見ることで、火山の恐ろしさとその災害の大きさから自然の持つエネルギーを感じ、同時にこれは人間にとって欠かすことのできない有用なものであることを知りました。

三日目、学年全体が長崎に集合、平和公園を訪れ、原爆資料館ホールで被爆者の方による当時の惨状を伺いました。その話に涙を流す生徒もいました。平和の大切さ平和のために自分は何をしなければならないかを考えさせられた一時でした。

四日目、事前に調べた長崎の街を班別に自主見学をしました。それぞれの思いを実現できて生徒たちはとても満足げでした。

最終日はハウステンボスを訪れ、午後帰路につき羽田に無事到着。終始天候に恵まれた研修旅行でした。

Kanto Gakuin Mutsuura Junior and Senior High Schools

From May 8 to 12, 2007, a school excursion for the second year students of the senior high school was held in three different places. Course A went to Nagasaki and visited the memorial museum of Father Kolbe and Shusaku Endo's memorial museum in Hirado. Course B went to Fukue Island in Nagasaki, and visited the astronomical observatory to see Saturn, and learned from the experts how to make Kamaboko, dried squid, and coral products. Also, they visited Dousaki Tenshudou to study about the history of Christianity. Course C went to Mt. Aso in Kumamoto, and enjoyed rice planting with teachers, while staying at farmers' houses to experience a farmer's life for a short time. They also visited the disaster memorial park in Unzen and learned about the power and danger nature has. On the third day of this excursion, the three courses joined in Nagasaki to visit the Peace Park and listen to a survivor of the atomic bombing at the Nagasaki Atomic Bomb Museum talk about their personal experience. Students were greatly moved by what they heard that day, and it gave them all an opportunity to think about the importance of peace. On the last day, students visited Nagasaki's Huis Ten Bosch and then returned safely back to Yokohama.

小学校

教頭
名取 俊夫

六年生緑の学校 卒業生を招いて

関東学院小学校では夏休み前に大きな行事があります。〝緑の学校〟です。今年も六月二五日（月）から二泊三日で清里、清泉寮で実施した五年生を始めにして、各学年緑の学校へ次々に出発します。普段、生活している家庭や学校から離れイエス様のことを考えたり、神様がおつくりになった自然、生き物のこと、友達のことを見つめ直したりするのが緑の学校です。草創期より始められた行事の一つです。

六年生は、六月二七日（水）から二九日（金）まで山形県蔵王で緑の学校を行いました。毎年、二日目に熊野岳と〝お釜〟とよばれているカルデラ湖周辺を散策します。

特徴ある蔵王の山々の地形、成り立ち、高山植物の名前を児童に教えに一日目に来てくださる先生がいます。山形大学理学部地球科学教室教授、斉藤和男先生です。斉藤先生は、関東学院小学校第四回の卒業生でもあります。六年生が緑の学校で蔵王に来ていることをお知りになり、昨年より蔵王の地形、自然について話をしに来てくださっています。今年も宿泊しているホテルまで来てくださいました。夕食後、大広間に集まり斉藤先生のお話の会を持ちました。熊野岳が噴火をくり返してきた歴史、明治時代にかかれたお釜から噴煙をあげている絵など大きく映しだしながら児童の興味をひくように話してくださいました。中でも美しいコマクサの花を映写し、コマクサのコマは馬の顔の意味なので、花の形が馬の顔と似ているとの説明には、どの児童も写真を見入っていました。翌日は斉藤先生のお話を頭におきながらの散策になり、充実したものになりました。

関東学院小学校を卒業した先輩が山形の地で活躍され、後輩たちのためにお骨折りいただいていることに感謝すると同時にとても誇らしい思いをいたしました。

Kanto Gakuin Elementary School

From June 25 to 27, 2006, “School in Green” was held in Kiyosato. This is a project for pupils to leave their homes and spend a few days together thinking about nature, God’s creation, and each other. Our 6th graders had the “School in Green” in Zao, Yamagata for three days. Dr. Kazuo Saitou, Professor of Yamagata University and a graduate of Kanto Gakuin Elementary School, visited the pupils and taught them about the mountains of Zao. This was his second time to participate in this program. Thanks to his interesting lecture, the pupils could learn much about nature.

六浦小学校

科学クラブ担当教諭
北條 勲

大学工学部での面白実験体験

六月十五日、私たち科学クラブの児童三十六名は関東学院大学工学部情報ネット・メディア工学科と電気電子情報工学科での面白実験に招待されました。

午後三時、大学六号館一階で工学部長の平松先生から子供たちへの歓迎の言葉とおみやげを頂き、子供たちは気分も高まりオリエンテーションを受けました。その後、二班に分かれて見学に入りましたが急遽、工学部内の他の施設を見せて頂く事になりＤＮＡの注出実験やロボット研究会の見学もさせてもらいました。

いよいよ人工雷の体験となりました。ブーンブーンという音がだんだんと大きくなり金網の中の鉄球と鉄球の間を見つめているとあたりの空気のにおいが変わり始めました。すると突然、バーン、という音がなった瞬間に太い糸のような閃光が走りました。そうです、これが人工雷でした。自然界では一億から三億ボルトもする雷が発生するわけですが、この研究室では十万ボルトの雷を実験装置で作り実際に子供たちに見せてくれました。子供たちの期待に応えて植原先生はだんだんと大掛かりな実験へと移り、最後の雷と爆音ではちょっと怖く感じるほどのものでした。

情報ネット・メディア工学科では三次元ＣＧによる立体顔画像の撮影を体験させてもらいました。じゃんけんで三人の子たちが代表となり、「ダイエ」という器械で写真をとりました。人間の目のように左右から撮り、それをコンピューターで凹凸を計算し合成させます。すると画面に立体的なお面のようなリアルな画像が映し出され、それはマウスを使って自在に操れました。

こうした体験を通して子供たちがさらにいろいろなものに対しての興味を持ったことはいうまでもありません。今回、このような機会を快く与えてくださった大学の工学部の先生方、担当の方々に感謝いたします。子供たちにとってより関東学院大学が身近に感じられるようになったことと思いました。また、機会を作って頂けたらと思っています。

Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School

On June 15, 2007, 36 pupils of the science club were invited to join in an interesting experiment held by Kanto Gakuin University’s College of Engineering. The pupils could see robots, an artificial thunder experiment, and three-dimensional pictures, as well as other things. We appreciate the faculty and students of the College of Engineering for giving these pupils a wonderful opportunity to learn science in a quite interesting way.

六浦幼稚園

主任
鈴木 直江

花の日礼拝

六月十二日（火）は、幼稚園の花の日礼拝でした。朝、子ども達は花を手にして登園してきます。「おはよう。綺麗なお花をありがとう。ホールに飾って皆で神様にありがとうの礼拝をしようね」と声を掛けると「この花、家に咲いてたの」「おじいちゃんにもらったよ」「この花ね、昨日お母さんと買い物に行って買ったんだ」と様々な返事が返ってきました。その中で一人の男の子が「先生、これ…」と困ったような顔をして口ごもりながら、手に握っていた花を差し出してくれました。それは野の花でした。お母さんからは、持ってこようと用意していた花を家に忘れてきてしまい、取りにも帰れず朝幼稚園に来る途中、道に咲いていた花を子どもと一緒に摘んできましたというお話でした。お母さんはとても恐縮されています。「○○くん、ありがとう。かわいい花が咲いていたね。この花はいつも○○くんが幼稚園に来るのを見ていたのかな。ホールに飾って神さまにありがとうってお祈りしよう」と言うと「そうだね。綺麗に咲いてたから、幼稚園に持ってきたんだよ」とほっとしたような嬉しそうな笑顔で答えてくれました。そして、花を大事そうに持って階段を上っていきました。礼拝が始まり男の子が持ってきてくれたあの花も台の上に飾られています。この小さな野の花にも注がれている神様の愛が、自分たち一人一人にも注がれていることを子ども達が感じてほしいと思います。よい香りに包まれて恵みの時を過ごしました。

Mutsuura Kindergarten

On June 12, 2007, the flower day service was held, and children brought flowers to decorate the chapel. One child brought wild flowers because he and his mother left their flowers at home. So they picked up wild flowers on their way to the Kindergarten. Even so, he held his wild flowers carefully and decorated the chapel with them. It is our prayer that children know that God's eyes are upon each of them just as His eyes are upon the wild flowers.

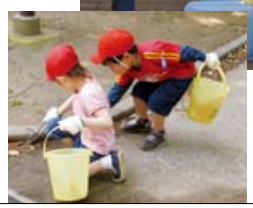
野庭幼稚園

主事
小高千恵

感じながら・考えながら

四月から年長児のグループ活動として毎週木曜の朝、園周辺のゴミ拾いを行っています。登園後すぐ軍手をはめトングとバケツを持って出かけます。公園・緑道・バス通りと普段から愛着のある所ですので張り切っての作業となります。持ち帰ったゴミは可燃・不燃・プラ・缶ビン等分別をします。それが終わると自分が使ったトング・バケツ・軍手を洗って干し、最後に友だちと気づいたことを分かち合います。「だんご虫まで連れて来ちゃったよ」・「タバコとお菓子のゴミはベンチの周りに多い」・「どうして大人はタバコを吸うんだろう?」など、出てきた感想はファイルして保護者の方にも読んで頂いています。実はこの振り返りが子ども達を成長させています。初めは「考え中」とか友だちと同じ意見が続きましたが、回を重ねる中で一人ひとりの感じ方や考えが違ってもOKだという事を知っていき、自分の発言に自信が出てきました。自分達の地域を大切にしようと始めた活動でしたが、奉仕の心を育むと等しく、感じ・考える力を養うことが出来ました。

ある日の手作りランチメニューは夏野菜のカレー・ハッシュドポテト・山桃のヨーグルトソーダー。ジャガイモ・なす・トマト・山桃は園で収穫したものです。七夕にちなんで星型のオクラを入れました。溶けてなくなったオクラに「流れ星みたいに消えちゃったね」と会話も弾みました。この日は関東学院高校体験学習の生徒たちも一緒でしたので、楽しさが園いっぱいに溢れていました。



Kanto Gakuin Noba Kindergarten

On every Thursday from this April, the older children in the kindergarten go out to pick up garbage in areas near the Kindergarten. After picking up the garbage and separating it, the children share with friends about what they noticed during this activity. This sharing time helps them think individually and accept others' different ideas.

学院役員・教職員人事

新任教員

①最終学歴　②所属　③専門分野・担当科目　④就任年月日

ジョセフ T. マキーム
①テンプル大学大学院教育研究科
②文学部 英語英米文学科　専任講師
③英語教育学
④2007年（平成19年）4月1日

川島　健治
かわしま　けんじ
①青山学院大学大学院法学研究科
②専門職大学院 法務研究科　准教授
③刑事訴訟法
④2007年（平成19年）4月1日

田中　裕明
たなか　ひろあき
①一橋大学大学院法学研究科
②専門職大学院 法務研究科　教授
③商法（会社法・有価証券法）
④2007年（平成19年）4月1日

澁谷　昌史
しぶや　まさし
①上智大学大学院文学研究科
②文学部 現代社会学科　准教授
③社会福祉学（児童福祉）
④2007年（平成19年）4月1日

佐々木　洋成
ささき　ようせい
①東京都立大学大学院社会科学研究科
②文学部 現代社会学科　准教授
③社会学（教育社会学）
④2007年（平成19年）4月1日

長谷川　善一
はせがわ　よしかず
①東京大学教養学部
②文学部 比較文化学科　特約教授
③教育・学術・文化に関する行政論及び国際交流論
④2007年（平成19年）4月1日

ドワイト P. デビットソン
①マイアミ大学英文学部
②文学部 英語英米文学科　特約専任講師
③神学
④2007年（平成19年）4月1日

遠藤　智行
えんどう　ともゆき
①東京大学大学院工学系研究科
②工学部 建築学科　専任講師
③空気調和設備工学、建築環境工学
④2007年（平成19年）4月1日

渡部　洋
わたなべ　ひろし
①東京工業大学大学院総合理工学研究科
②工学部 建築学科　准教授
③建築構造
④2007年（平成19年）4月1日

出石　稔
いずいし　みのる
①國學院大學法学部
②法学部 法政策学科　教授
③地方自治政策
④2007年（平成19年）4月1日

佐藤　志乃
さとう　しの
①早稲田大学大学院商学研究科
②経済学部 経営学科　専任講師
③商学
④2007年（平成19年）4月1日

山岸　博之
やまぎし　ひろゆき
①東京農業大学大学院農学研究科
②人間環境学部 健康栄養学科　専任講師
③生化学・生理学・栄養学
④2007年（平成19年）4月1日

佐藤　容子
さとう　ようこ
①東京医科歯科大学大学院医学研究科
②人間環境学部 健康栄養学科　教授
③生理学
④2007年（平成19年）4月1日

立山　徳子
たてやま　のりこ
①東京都立大学大学院社会科学研究科
②人間環境学部 人間環境デザイン学科　准教授
③生活デザイン
④2007年（平成19年）4月1日

新任役員

①最終学歴　②現職
③就任年月日（2007年8月31日現在）

R.L.スティブンス
①フラー神学校
②監事
③2007年（平成19年）5月27日

有田　匡孝
ありた　まさたか
①東京医科歯科大学
②理事
③2007年（平成19年）4月26日

ポール A. ライリー
①サザンクイーンズランド大学大学院
②人間環境学部
現代コミュニケーション学科　准教授
③応用言語学
④2007年（平成19年）4月1日

学校法人 関東学院役員一覧

理事長	内藤　幸穂
学院長	森島　牧人
常務理事（総務）	星野　彰男
常務理事（財務）	西野　芳夫
常務理事（企画）	津田　宏之
理事	松井　和則
	冨山　隆
	落越　道彦
	清水　元
	島田　正敏
	帆苅　猛
	秋山　薊二
	畑中　康一
	山下　幸司
	平松　友康
	有田　匡孝
	沖山　文敏
	ドワイト P. デビットソン
	澤野　芳久
監事	田野井　一雄
	ロバータ L. スティブンス
	天野　昭一

2007年（平成19年）8月31日現在

学院役員・教職員人事

①最終学歴　②所属　③専門分野・担当科目　④就任年月日

新任教員

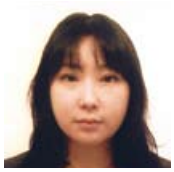
大藤　行央
おおとう　ゆきひさ
①横浜市立大学文理学部
②六浦中学校・高等学校　教諭
③理科科
④2007年（平成19年）4月1日

宮前　州吾
みやまえ　しゅうご
①同志社大学文学部
②中学校高等学校　教諭
③英語科
④2007年（平成19年）4月1日

新堀　雄介
にいぼり　ゆうすけ
①筑波大学第一学群人文学類
②中学校高等学校　教諭
③社会科
④2007年（平成19年）4月1日

土谷　みち子
つちや　みちこ
①日本女子大学大学院文学研究科
②人間環境学部 人間発達学科　教授
③保育学
④2007年（平成19年）4月1日

鈴木　弥生
すずき　やよい
①早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
②人間環境学部 人間発達学科　教授
③社会福祉学
④2007年（平成19年）4月1日



大日向　聡子
おおひなた　さとこ
①神戸女学院大学音楽学部
②六浦小学校　教諭
④2007年（平成19年）4月1日

汲田　真汐
くみた　ましほ
①日本女子大学人間社会学部
②小学校　教諭
④2007年（平成19年）4月1日

正木　恵
まさき　めぐみ
①東京女子大学文理学部
②六浦中学校・高等学校　教諭
③数学科
④2007年（平成19年）4月1日

手塚　裕貴
てづか　ひろたか
① 関東学院大学経済学部第二部
② 六浦中学校・高等学校　教諭
③ 社会科
④ 2007年（平成19年）4月1日

野本　幸靖
のもと　ゆきやす
①中央大学商学部
②六浦中学校・高等学校　教諭
③数学科
④ 2007年（平成19年）4月1日

弘田　祥子
ひろた　さちこ
①関東学院大学人間環境学部
②六浦幼稚園　教諭
④2007年（平成19年）4月1日

佐藤　麻子
さとう　あさこ
①関東学院大学人間環境学部
②六浦幼稚園　教諭
④2007年（平成19年）4月1日

横山　麻美
よこやま　まみ
①国際基督教大学教養学部
②六浦小学校　教諭
④2007年（平成19年）4月1日

①最終学歴　②所属　③就任年月日

教職員人事

李　松林
り　そんりん
①関東学院大学大学院経済学研究科
②経済学部 社会連携研究プロジェクト
③2007年（平成19年）6月1日

新任ポスト・ドクター研究員

喜田　愛子
きた　あいこ
①関東学院大学工学専攻科
②工学部 社会環境システム学科技師
③2007年（平成19年）4月1日

新任嘱託教務職員

田所　真弥
たどころ　しんや
①近畿大学九州短期大学保育科
②野庭幼稚園　教諭
③2007年（平成19年）4月1日

新任契約講師

窪田　友
くぼた　ゆう
①聖ヶ丘教育福祉専門学校
②野庭幼稚園　教諭
③2007年（平成19年）4月1日

新任契約講師

藤田　友也
ふじた　ともや
①北海道教育大学教育学部
②六浦小学校　教諭
③2007年（平成19年）4月1日

新任契約講師

学院役員・教職員人事

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

2 New Members of the Board of Trustees

28 New Faculty Members

3 New Faculty Members Employed Temporarily

1 New Assistant Staff Employed Temporarily

1 New Post-Doctorate Researcher

3 New Office Clerks

3 New Contract Office Clerks

2 Retired Members of the Board of Trustees

Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Project

A collection of symbolic designs and characters of Kanto Gakuin.
Entry dates: October 6, 2007 to April 30, 2008
Selection Announcement: June 5, 2008
Award Ceremony: October, 2008

退任役員

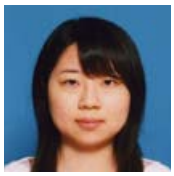
①役職
②退任年月日
（2007年8月31日現在）

中島　髙史
なかじま　たかし
①理事
②2007年（平成19年）3月31日

J.A.アーマガスト
①監事
②2007年（平成19年）5月26日

職員人事

①所属　②就任年月日



新任職員

浜　香代子
はま　かよこ
①総務課　書記
②2007年（平成19年）4月1日

新任職員

細貝　康太
ほそかい　こうた
①キャリア支援課　書記
②2007年（平成19年）4月1日

新任職員

前田　加奈
まえだ　かな
①教務課　書記
②2007年（平成19年）4月1日

新任嘱託職員

安　智絵
やす　ともえ
①出納課
②2007年（平成19年）5月1日

新任嘱託職員

有馬　房恵
ありま　ふさえ
①カウンセリングセンター
金沢文庫キャンパス事務室
②2007年（平成19年）5月1日

新任嘱託職員

矢野　知亜紀
やの　ちあき
①人事課
②2007年（平成19年）4月1日

学院創立125周年記念事業
学院シンボルマーク、学院キャラクターをみなさんから募ります

関東学院創立125周年記念事業の一つとして、学院の教育事業を象徴する学院シンボルマークと学院キャラクターを創造するためのデザインを募ります。この学院シンボルマークと学院キャラクターの創造を機会に、創立125周年記念事業を活性化するために、関東学院にかかわるすべての方々の参加を希望します。この公募企画概要は以下のとおりです。

各校の校章の共通点は、オリーブの葉、花、枝をモチーフにしています。オリーブは「ノアの方舟」の話から象徴されていることを踏まえて、キリスト教に基づく教育を行う関東学院にふさわしい学院シンボルマークと学院の雰囲気を表す学院キャラクターを募ります。

応募資格を関東学院の在校生、卒業生、保護者、教職員とします。学院シンボルマーク、学院キャラクターそれぞれについて選考を行い、選ばれた作品はシールやワンポイント図案として学院の各種広報印刷物や記念グッズに使用することを予定しています。入選考された作品は原案として専門デザイナーによる修正が加わることがあります。

学院シンボルマーク、学院キャラクター公募日程（予定）

- **応募開始** 2007年10月6日（土）学院創立記念日・式典日
- **応募締切** 2008年4月30日（水）必着
- **選考発表** 2008年6月5日（金）
- **表彰式**　2008年10月　学院創立記念式典日

※詳細は2007年10月配布開始予定の応募要領でお知らせいたします。

>>>問合せ先：企画調査課（045-786-7036）

野庭幼稚園　小学校　六浦中学校・高等学校　大学
六浦幼稚園　六浦小学校　中学校・高等学校

生涯学習センター講座紹介

ワインで「心と体の健康」を学ぶ

生涯学習センターでは、多くの公開講座、資格講座を開講しています。春学期には、31の公開講座が開かれました。その中から、今回は、「楽しい人生への処方箋3−ワインを楽しむ−」をとりあげます。

本講座は、キリンビール（株）のご協力のもと「心と体の健康」をテーマに、キリンビールの中牟田孝一氏を講師に招き、6月7日と14日に、金沢八景キャンパスで開かれました。第1回は「ワインは難しい!?−ワインの基本−」、第2回は「どんな食事と合うの?体にいいってホント?」と題して、行われました。受講者は72名で、講座終了後のアンケートでは多くの方々から、高い評価を頂きました。講義と試飲をとおしてワインについて多くを学んで頂けたと思います。

秋学期にも、これまでとは異なったやり方で行う講座等、魅力的な講座を多数、ご用意しております。ご期待ください。

The Kanto Gakuin University, Life-Long Education Center has been offering various programs since 2002. In the spring of 2007, it offered 31 open-college programs. Among those, "Enjoying Wine" is featured here in this article.
"Enjoying Wine", held at KGU's Kanazawa-Hakkei Campus on June 7 and 14, was a joint program of Kirin Brewery Co., Ltd. and KGU, and 72 people participated in it. We invited Mr. Nakamuta from Kirin Brewery and he talked about "some basic knowledge on wine", "wine and food" and "wine and health". The program was highly evaluated by many of the participants.
We will offer many attractive courses in the fall of 2007, as well. We are looking forward to serving you.

■秋学期開講講座一覧

実施場所	講　座　名
八景キャンパス	韓国語初級Ⅰ
八景キャンパス	韓国語初級Ⅲ
八景キャンパス	フランス語会話（中級）
八景キャンパス	やさしいパソコン
八景キャンパス	ラッピング
八景キャンパス	ラッピング応用
八景キャンパス	ゴルフ
八景キャンパス	木工教室
八景キャンパス	中国語入門・初級
八景キャンパス	中国語中級
八景キャンパス	色彩講座
八景キャンパス	コンサートシリーズ第9回
八景キャンパス	鎌倉彫教室（初級編）
八景キャンパス	日本の文化
八景キャンパス	楽しい人生への処方箋4
八景キャンパス	陶芸教室
八景キャンパス	保育実践講座
八景キャンパス	シャーロック・ホームズの魅力の世界Ⅲ
八景キャンパス	知って得する! 実践ファイナンシャルプランニング講座
文庫キャンパス	ラグビー
文庫キャンパス	第11回英語公開講座
関内メディアセンター	やさしいパソコン
関内メディアセンター	韓国語初級
関内メディアセンター	ラッピング
関内メディアセンター	ラッピング応用
関内メディアセンター	哲学初歩・6
関内メディアセンター	パソコン実用Ⅱ
関内メディアセンター	パソコン実用Ⅲ
関内メディアセンター	「平和について語る　2」
関内メディアセンター	「第3回ポエトリ・リーディング」
関内メディアセンター	ホスピタリティ・コーディネーター
関内メディアセンター	TOEIC対策 コミュニケーション能力養成講座
関内メディアセンター	野村證券産学協同公開講座
小田原キャンパス	小田原市民大学講座
小田原キャンパス	韓国語初級Ⅲ
葉山セミナーハウス	葉山町民大学

編集後記

学報No.34を届けいたします。いかがでしたか。

横濱開港150周年の年となる2009年に、関東学院は前身の横浜バプテスト神学校が創設された1884年から数えて125周年を迎えます。その年を一つの目標として学院事業を展開しております。

この学報は、今春に発行した前号から編集方針を次のように変更しました。学院の特色を強調する。読者が読みたい記事を大きく取り上げる。読物的性格を強くする。印刷に際しては自然環境に配慮する。

今回の具体例としては、表紙・裏表紙にテンネー礼拝堂の写真を採用しました。この礼拝堂は、私立中学関東学院の設立者であるC・B・テンネー博士を記念して建てられた礼拝堂であり、1929年、J・H・モーガン氏により設計された中学校本館3階にあります。また、この本館は歴史的建造物として横浜市から指定されています。創立125周年記念特集として新企画「三世代が関東学院に学ぶ」を始めました。レイアウトを雑誌風にし、記事内容を豊富にしました。自然環境を配慮して、従来から採用の古紙配合率100%再生紙に加え、大豆インキにより印刷し、紙質も従来より薄くしました。

今後も皆様に愛読される誌面づくりを目指します。ご意見ご感想をお寄せくだされば幸甚です。

（総務部広報課）

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先
〒236-8501
横浜市金沢区六浦東 1-50-1
関東学院 法人事務局広報課
電話：045（786）7006

E-mail:
kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

第3回
ポエトリ・リーディング講座
～詩の朗読会～

谷川俊太郎と小池昌代の「6P's」

12月1日（土）
14:00～15:30
KGU関内
メディアセンター

六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
5(金)　創立記念礼拝 (秋季特別伝道礼拝) 6(土)　創立記念式典 16(火)・17(水)　中間試験 22(月)　宗教改革記念礼拝 (中1、中2) 23(火)　宗教改革記念礼拝(中3) 26(金)・27(土)　六浦祭	5(金)　創立記念礼拝 6(土)　学院創立記念式典 11(木)　ぶどうの木後期発会式 17(水)　3年生社会科見学 22(月)　大掃除 23(火)　一般入試 25(木)　陸上記録会 27(土)　オリブ祭	1(月)　後期始業式 5(金)　学院創立記念礼拝 6(土)　学院創立記念日 9(火)　高学年遠足 11(木)　低学年遠足 16(火)　中学年遠足 20(土)　一般入試A日程面接試験 23(火)　一般入試A日程適性検査 27(土)　一般入試B日程面接・ 適性検査	3(水)　移動動物園 5(金)　子育て講演会 6(土)　学院創立記念式典 10(水)　誕生会 15(月)　入園要項配布 17(水)　入園説明会 20(土)　入園説明会 25(木)　秋の遠足 31(水)　親子劇場	4(木)　公開保育 5(金)　移動動物園 6(土)　学院創立記念式典 11(木)　秋の遠足 15(月)　願書配布／入園説明会 18(木)　おいも掘り 22(月)　わかば会 24(水)　誕生会 25(木)　絵本展示会 29(月)　バイブルクラス 31(水)　ひとみ座人形劇②
10(土)　第2回学校説明会 19(月)　収穫感謝礼拝	6(火)～15(木)　グループ・個人面談 14(水)　音楽鑑賞会 15(木)　収穫感謝礼拝 30(金)　アドベント礼拝Ⅰ	3(土)　バザー 5(月)　振替休日 (バザー11/3　文化の日) 6(火)　冬服・冬時間開始 16(金)　授業参観・懇談会 22(木)　収穫感謝礼拝 28(水)　マラソン大会	1(木)　入園願書受付 6(火)　クラス懇談年中組 7(水)　誕生会 9(金)　クラス懇談年少組 13(火)　絵本展示会 16(金)　クラス懇談年長組 20(火)　感謝祭礼拝 26(月)～　アドベント 30(金)　避難訓練	1(木)　新入児受付 5(月)　わかば会講演会 6(火)　保育参加① 8(木)　保育参加② 14(水)　誕生会 14(水)　ひとみ座(ちいさな劇場) 19(月)　収穫感謝礼拝 20(火)　収穫感謝訪問 21(水)　座談会 26(月)　バイブルクラス 30(金)　奉仕日
6(木)～10(月)　期末試験 12(水)・13(木)　答合せ 12(水)　ボランティア活動 18(火)　学院クリスマスコンサート 19(水)　クリスマス礼拝 20(木)　終業式 21(金)　冬期休業開始 23(日)～27(木) スキー・スノーボードスクール	7(金)　アドベント礼拝Ⅱ 14(金)　アドベント礼拝Ⅲ 18(火)　学院クリスマスコンサート 22(土)　クリスマス礼拝 22(土)　父母の会全体会 22(土)　終業式 25(火)～28(金)　補習	2(日)　アドベント礼拝Ⅰ 9(日)　アドベント礼拝Ⅱ 16(日)　アドベント礼拝Ⅲ 18(火)　学院クリスマスコンサート 21(金)　クリスマス礼拝 22(土)　冬期休業開始 23(日)　アドベント礼拝Ⅳ	1(土)　2～4年生同窓会 5(水)　おりぶ会クリスマス 11(火)　年長組集合写真 12(水)　誕生会 18(火)　学院クリスマスコンサート 20(木)　クリスマス礼拝(年長) 21(金)　クリスマス礼拝(年少中) 21(金)　2学期終了	1(土)　2・3年生同窓会 5(水)　誕生会 10(月)　わかば会クリスマス礼拝 17(月)　バイブルクラス 18(火)　学院クリスマスコンサート 19(水)　クリスマス礼拝・終業式 20(木)～　冬期シャローム (預かり保育)開始
8(火)　始業式 12(土)　第3回学校説明会 22(火)　生徒総会	8(火)　始業式 9(水)～31(木)　6年特別時間割 11(金)　新1年1日入学(1) 16(水)～22(火)　書き初め展 26(土)　中学年学習発表会	8(火)　授業開始・書き初め 9(水)～11(金)　スキー教室 15(火)～17(木)　身体測定 19(土)　芸術鑑賞会・アブラハムの会 28(月)　避難訓練	8(火)　3学期開始 10(木)　身体測定年長組 11(金)　身体測定年中組 15(火)　身体測定年少組 16(水)　おりぶ会 こんのひとみさんコンサート 22(火)　お餅つき 23(水)　誕生会 23(水)　一日入園 29(火)　防犯訓練	9(水)　始業式 10(木)・11(金)　身体測定 16(水)　座談会 18(金)　おもちつき 21(月)　わかば会 22(火)　保育参加(年長児) 23(水)　誕生会 24(木)・25日(金)　CAPワークショップ 28(月)　バイブルクラス 30(水)　ひとみ座人形劇③
1(金)　中学入学試験A日程 2(土)　中学入学試験B日程 5(火)　中学入学試験C日程 15(金)　中学合唱コンクール 23(土)　施設訪問	6(水)　新1年1日入学(2) 15(金)　4年社会科見学 23(土)　低学年学習発表会 26(火)～3/7(金)　1～5年個人面談 27(水)　6年社会科見学	12(火)　夏時間開始 15(金)　学習発表会(下学年) 22(金)　学習発表会(上学年)	1(金)～8(金)　個人面談 6(水)　誕生会 13(水)　入園打ち合わせ 15(金)　消防訓練 20(水)　卒業遠足	1(金)　新入児1日入園 4(月)　わかば会 15(金)　年長児卒業遠足 25(月)　バイブルクラス 27(水)　誕生会
6(木)～10(月)　期末試験 12(水)　ボランティア活動 12(水)～13(木)　答合せ 13(木)　個人写真撮影 (新2年生、新中3) 18(火)　中学卒業礼拝 19(水)　修了式 20(木)　春期休業開始	3(月)　方面別反省会 4(火)　演劇鑑賞会 5(水)　卒業礼拝 6(木)　卒業記念バレーボール 7(金)　5年社会科見学 17(月)　卒業式 22(土)　終業式	4(火)　卒業礼拝 6(木)　6年生を送る会 18(火)　卒業式 19(水)　終業式・個人面談 20(木)　春期休業開始 21(金)・22(土)　個人面談	3(月)　ひな祭りなかよし会 5(水)　誕生会 12(水)　お別れ会 14(金)　おりぶ会総会 18(火)　卒業式(年中参加) 19(水)　3学期終了式 20(木)　春期休業開始	3(月)　なかよし会会食 5(水)　座談会 10(月)　わかば会総会 11(火)　お別れ会 12(水)　誕生会 17(月)　終業式 18(火)　卒業式 19(水)　春期シャローム (預かり保育)開始

主な学校行事予定（10月～3月）

	大学	高等学校	六浦高等学校	中学校
10	6(土)　創立記念日(授業日) 8(月)　体育の日(授業日) 30(火)　休講 31(水)　大学祭準備(休講)	6(土)　学院創立記念日 16(火)～19(金)　中間試験 19(金)　高1生徒理解調査 20(土)　高3模試 30(火)　高校宗教改革記念礼拝	5(金)　創立記念礼拝 (秋季特別伝道礼拝) 6(土)　創立記念式典 10(水)～12(金)　中間試験(高3) 16(火)・17(水)　中間試験(高1・2) 16(火)　高3答合せ 21(日)　高3模試 23(火)　宗教改革記念礼拝(高1) 24(水)　宗教改革記念礼拝(高2・3) 26(金)・27(土)　六浦祭	6(土)　学院創立記念日 16(火)～19(金)　中間試験 29(月)　中学宗教改革記念礼拝
11	1(木)～3(土)　大学祭 4(日)　大学祭後整理	1(木)　かんらんさい前日準備 2(金)　かんらんさい(非公開) 3(土)　かんらんさい(公開) 5(月)　かんらんさい(後片付け) 6(火)　振替休日 (かんらんさい11/3文化の日) 7(水)　高2模試 14(水)　高校県下一斉試験 15(木)　高校生徒会役員選挙 17(土)　香柏会講演会父親の集い 22(木)　高校感謝祭礼拝 26(月)　アドベントツリー点灯式	14(水)　高校県下一斉テスト 20(火)　収穫感謝礼拝	1(木)　かんらんさい前日準備 2(金)　かんらんさい(非公開) 3(土)　かんらんさい(公開) 5(月)　かんらんさい(後片付け) 6(火)　振替休日 (かんらんさい11/3文化の日) 14(水)　中1狂言鑑賞 15(木)　中学生徒会役員選挙 17(土)　香柏会講演会父親の集い 21(水)　中学感謝祭礼拝 26(月)　アドベントツリー点灯式
12	10(月)　大学クリスマス礼拝 23(日)　冬期休業開始 [学部] 25(火)～28(金)　冬期集中講義期間	4(火)～7(金)　期末試験 10(月)～12(水)　答案返却日 13(木)～19(水)　自宅学習日 20(木)　クリスマス礼拝キャンドル・ライト・サービス 20(木)　香柏会全体委員会 21(金)　冬期休業開始 21(金)～27(木)　台湾ホームステイ 21(金)～26(水)　希望制冬期補習	5(水)～10(月)　期末試験(高1・2) 6(木)～10(月)　期末試験(高3) 12(水)　ボランティア活動 12(水)・13(木)　答合せ 18(火)　学院クリスマスコンサート 19(水)　クリスマス礼拝 20(木)　終業式 21(金)　冬期休業開始 23(日)～27(木) スキー・スノーボードスクール	4(火)～7(金)　期末試験 10(月)～12(水)　答案返却日 13(木)～19(水)　自宅学習日 20(木)　クリスマス礼拝キャンドル・ライト・サービス 20(木)　香柏会全体委員会 21(金)　冬期休業開始 21(金)～26(水)　中学指名制 冬期補習
1	[学部・法科大学院] 6(日)　冬期休業終了 7(月)　秋学期授業再開 18(金)　秋学期授業終了 19(土)・20(日)　大学入試センター試験 21(月)～26(土)　補講及び秋学期定期試験 27(日)・2/3(日)・2/4(月) 定期試験予備日 28(月)～2/2(土)　秋学期定期試験 [大学院] 6(日)　冬期休業終了 7(月)　秋学期授業再開 19(土)・20(日)　大学入試センター試験 26(土)　秋学期授業終了 28(月)～2/2(土)　補講期間	8(火)　3学期授業開始 19(土)・20(日)　大学入試センター試験 25(金)　高1模試 26(土)　中学校高等学校 創立記念礼拝	8(火)　始業式 9(水)～29(火)　高3特別授業 22(火)　生徒総会 29(火)　高校卒業礼拝	8(火)　3学期授業開始 26(土)　中学校高等学校 創立記念礼拝
2	[学部] 1/28(月)～2/2(土)　秋学期定期試験 1/27(日)・2/3(日)・2/4(月)　定期試験予備日 5(火)～9(土)　冬期集中講義期間 12(火)～14(木)　追試験 [法科大学院] 1/28(月)～2/2(土)　秋学期定期試験 1/27(日)・2/3(日)・2/4(月)　定期試験予備日 12(火)～14(木)　追試及び再試験 [大学院] 1/28(月)～2/2(土)　補講期間	8(金)　高校バプテスト ミッションデー礼拝 11(月)　振替休日(建国記念の日) 15(金)　高2センター試験対策 27(水)　高校卒業礼拝	9(土)　模擬試験(高1・2) 23(土)　施設訪問	1(金)　中学入学試験A日程、 帰国生入試 2(土)　中学入学試験B日程 5(火)　中学入学試験C日程 7(木)　中学バプテスト ミッションデー礼拝 11(月)　振替休日(建国記念の日) 15(金)　中学合唱コンクール
3	24(月)　卒業式・学位授与式 31(月)　秋学期終了	1(土)　高校卒業式 4(火)～7(金)　期末試験 10(月)　自宅学習日 11(火)　答案返却日 12(水)～18(火)　自宅学習日 18(火)　香柏会全体委員会 19(水)　終業式 20(木)～23(日)　スキー教室 21(金)　春季休業開始	1(土)　高校卒業式 5(水)～10(月)　期末試験(高1・2) 12(水)　ボランティア活動 12(水)・13(木)　答合せ 19(水)　修了式 20(木)　春季休業開始	4(火)～7(金)　期末試験 10(月)　自宅学習日 11(火)　答案返却日 12(水)～18(火)　自宅学習日 18(火)　中学卒業礼拝 18(火)　香柏会全体委員会 19(水)　終業式 20(木)～23(日)　スキー教室 21(金)　春期休業開始

Main Annual School Events(from October, 2007 to March, 2008)

Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Junior High School, Kanto Gakuin Elementary School, Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School, Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten and Kanto Gakuin Noba Kindergarten.

関東学院学報　KANTO GAKUIN NEWS　No.34　2007.9

人になれ 奉仕せよ

テンネー礼拝堂（C.B.テンネー博士は私立中学関東学院の設立者）
中学校本館（1929年、J.H.モーガン設計）3階

関東学院学報　第34号　2007年9月20日
発行：関東学院　編集：関東学院広報課

関東学院大学　045-781-2001（代）

●金沢八景キャンパス　045-781-2001
経済学部
工学部
人間環境学部
大学院（経済学研究科・工学研究科）
法科大学院

●金沢文庫キャンパス　045-786-7179
文学部
大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス　0465-34-2211
法学部
大学院（法学研究科）

関東学院中学校高等学校　045-231-1001

関東学院小学校　045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校　045-781-2525

関東学院六浦小学校　045-701-8285

関東学院六浦幼稚園　045-781-0170

関東学院野庭幼稚園　045-845-0876

学校法人
関東学院

〒236-8501　横浜市金沢区六浦東1-50-1
法人事務局　045-786-7028（代）
http://www.kanto-gakuin.ac.jp/

環境に配慮して
PRINTED WITH SOY INK
この印刷は大豆インキを使用しています。
R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています
26000